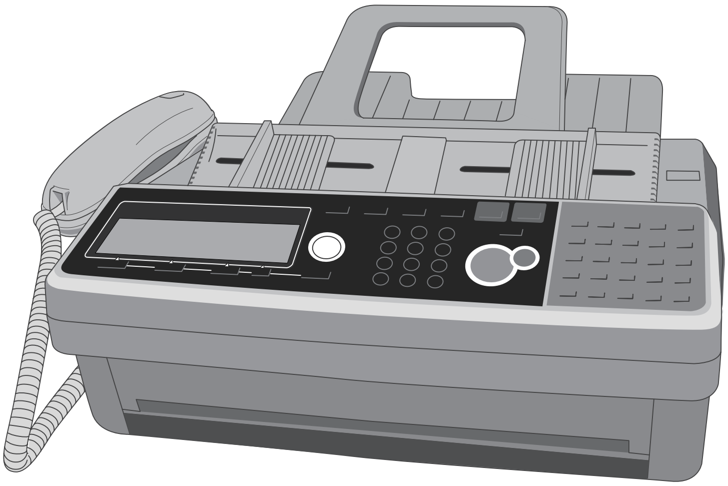
技術基準適合認定品

# 取扱説明書

# NTTFAX T-360

## 取扱説明書 ネットワーク機能編



NTT

（空白ページ）

# 目次

## 第 5 章　困ったときは



## 第 6 章　商標および著作権

# 本書の表示について

## 安全に関する表示

本書では、安全にお使いいただくために守っていただきたい事項や操作する上での重要情報に、以下のマークをつけています。

| | |
|---|---|
| ⚠警告 | 取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性のある警告事項が書かれています。<br>安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。 |
| ⚠注意 | 取り扱いを誤った場合に、傷害を負う可能性または物的損害が発生する恐れがある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。 |
| ！お願い | 誤った操作によるトラブルを防ぐために、必ず守っていただきたい重要事項や制限事項が書かれています。 |
| 補 足 | 操作の参考情報や補足説明が書かれています。 |

## 操作キーとボタンの表記

〈　〉操作パネル上のキー
（例：スタートキー →〈スタート〉）
［　］液晶ディスプレイ上のボタンやコンピューター画面上のボタンなど
（例：画質ボタン →［画質］）

# 第 1 章

# ドライバーをインストールする

この章ではドライバーのインストールのしかたについて説明しています。

# ドライバーおよび必要なシステム

## 「セットアップディスク」に含まれるドライバー

付属の「セットアップディスク」CD-ROM には以下のドライバーが含まれています。

| ドライバー | 概要 |
|---|---|
| ファクスドライバー | アプリケーションソフトで作成した文書を、プリントアウトせずにコンピューターから直接ファクス送信できます。<br>詳細については、「アプリケーションソフトからファクスを送信する」（2-2 ページ）を参照してください。 |
| TiffMaker | アプリケーションソフトで作成した文書を、インターネットファクスに添付できる TIFF ファイルに変換できます。<br>詳細については、「電子メール用の TIFF ファイルを作成する」（2-8 ページ）を参照してください。 |

## 各オペレーティングシステムへの対応状況

コンピューターからのデータを本商品でプリントするためには、プリンタードライバーのインストールが必要です。
付属の「セットアップディスク」CD-ROM に含まれるドライバーが動作するシステムは以下のとおりです。

| 項目 | 仕様 |
|---|---|
| コンピューター | 下記のオペレーティングシステムが動作する IBM PC/AT 互換機 |
| オペレーティングシステム | Windows 8 (x86/x64)<br>Windows 8 Pro (x86/x64)<br>Windows 8 Enterprise (x86/x64)<br>Windows 7 Home Premium（x86/x64）<br>Windows 7 Ultimate（x86/x64）<br>Windows 7 Professional（x86/x64）<br>Windows 7 Enterprise（x86/x64）<br>Windows Vista Home Basic（x86/x64）<br>Windows Vista Home Premium（x86/x64）<br>Windows Vista Ultimate（x86/x64）<br>Windows Vista Business（x86/x64）<br>Windows Vista Enterprise（x86/x64）<br>Windows XP Home Edition<br>Windows XP Professional<br>Windows XP Professional x64 Edition<br>Windows Server 2012 R2 Datacenter<br>Windows Server 2012 R2 Standard<br>Windows Server 2012 R2 Essentials<br>Windows Server 2012 R2 Foundation |

| 項目 | 仕様 |
| --- | --- |
| オペレーティングシステム | Windows Server 2012 Datacenter<br>Windows Server 2012 Standard<br>Windows Server 2012 Essentials<br>Windows Server 2012 Foundation<br>Windows Server 2008 R2 Standard（x64）<br>Windows Server 2008 R2 Enterprise（x64）<br>Windows Server 2008 R2 Datacenter（x64）<br>Windows Server 2008 Standard（x86/x64）<br>Windows Server 2008 Enterprise（x86/x64）<br>Windows Server 2008 Datacenter（x86/x64）<br>Windows Server 2003 Standard Edition<br>Windows Server 2003 Standard x64 Edition<br>Windows Server 2003 Enterprise Edition<br>Windows Server 2003 Enterprise x64 Edition<br>Windows Server 2003 Datacenter Edition<br>Windows Server 2003 Datacenter x64 Edition<br><br>※ 日本語版以外のオペレーティングシステムでは動作しません。 |
| ハードディスクの空き容量 | 10 MB 以上 |
| ネットワークプロトコル | HTTP（Web ブラウザー）<br>Standard TCP/IP（LPR/LPD、Port9100） |

# インストールのしかた

本機をネットワーク接続でお使いになる場合のインストール方法を説明しています。

## インストール作業の流れ

**LANケーブル接続**

**LANケーブルを接続する**
『取扱説明書』第1章の「機器の接続のしかた」の「LANケーブルの接続」を参照してください。

↓

**本製品側の設定**

**LAN(有線)を設定する**
『取扱説明書』第1章の「初期設定をする(設置モード)」の「LAN(有線)を設定する」を参照してください。

**TCP / IP 設定をする**
『取扱説明書』第8章の「ネットワーク設定をする」の「TCP/IP設定をする」を参照してください。

↓

**コンピューター側の設定**

**ドライバーをインストールする** (→ 1-5 ページ)

# ドライバーをインストールする

補足

ドライバーをインストールするには、コンピューターの管理者または管理者に属するユーザーとしてログオンしてください。

**1** **コンピューターの電源を入れ、「セットアップディスク」CD-ROM を入れます。**

・インストールプログラムが自動的に起動し、インストールメニュー画面が表示されます。
・自動再生の画面が表示されたときは、[InstMenu.exe の実行] をクリックします。
・「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されたら、[許可] または [はい] をクリックします。
・インストールプログラムが自動的に起動しない場合は、「セットアップディスク」CD-ROM の中の「InstMenu.exe」アイコンをダブルクリックしてください。

**2** **インストールメニュー画面から、[ドライバーインストール] をクリックします。**

**3** **使用許諾契約が表示されます。内容をよくお読みいただき、ご同意いただける場合は、[同意する] をクリックします。**

[同意しない] または [< 戻る] をクリックすると、インストールメニュー画面に戻ります。

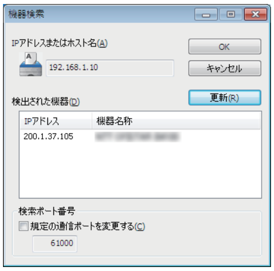
**4** **インストール方法を選択して、[次へ] をクリックします。**

・「標準インストール」を選択した場合は、「ファクスドライバー」がインストールされます。手順 6 へ進みます。
・「カスタムインストール」を選択した場合は、手順 5 に進みます。

**5** **インストールするドライバーを選択し、[次へ] をクリックします。**

**6** **本機の IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。**

[検索] をクリックして、ネットワーク上の機器を検索することもできます。




1 [検索] をクリックします。
2 [更新] をクリックします。
プリンターの検索が開始されます。
「Windows セキュリティの重要な警告」が表示された場合は、[ブロックを解除する] または [アクセスを許可する] をクリックします。その後、再度 [更新] をクリックします。
もし誤って、[ブロックを解除する] または [アクセスを許可する] 以外をクリックした場合は、「Windows ファイアウォール ブロックについて」(1-6 ページ)を参照してブロックを解除してください。
3 接続する機器を選択して、[OK] をクリックします。

**7** **[インストール] をクリックします。**

インストール中に、「ソフトウェアのインストール」、「デジタル署名が見つかりませんでした」または「Windows セキュリティ」の画面が表示される場合がありますが、機能上問題はありません。
[続行]、[はい]、[このドライバーソフトウェアをインストールします] または [インストール] をクリックしてください。

**8** **「インストールが完了しました」と表示されたら、[完了] をクリックします。**

## ❑ Windows ファイアウォール ブロックについて

ドライバーインストール時に「Windows セキュリティの重要な警告」が表示されたとき、誤って、[ブロックを解除する]、または［アクセスを許可する］以外をクリックした場合は、以下の手順でブロックを解除してください。

**❗お願い**

Windows ファイアウォールの設定についてよくわからない場合は、操作を中止し、ネットワーク管理者にご相談ください。

### Windows 8 の場合

1 「スタート画面」から「デスクトップ」をクリック→チャームの「設定」→「コントロールパネル」→「システムとセキュリティ」→「Windows ファイアウォール」→画面左側にある「Windows ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可」をクリックします。

2 ［設定の変更］をクリックし、「Network Device Search Application」にチェックを入れ、[OK]をクリックします。

### Windows Server 2012 R2、Windows Server 2012 の場合

1 「スタート画面」→「コントロールパネル」→「システムとセキュリティ」→「Windows ファイアウォール」→画面左側にある「Windows ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可」をクリックします。

2 ［設定の変更］をクリックし、「Network Device Search Application」にチェックを入れ、[OK]をクリックします。

### Windows 7 の場合

1 ［スタート］メニューから「コントロールパネル」→「システムとセキュリティ」→「Windows ファイアウォール」→画面左側にある「Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する」をクリックします。

2 ［設定の変更］をクリックし、「Network Device Search Application」にチェックを入れ、[OK]をクリックします。

### Windows Vista、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2008 の場合

1 ［スタート］メニューから「コントロールパネル」→「セキュリティ」→「Windows ファイアウォール」→画面左側にある「Windows ファイアウォールによるプログラムの許可」をクリックします。

   ※コントロールパネル画面の表示方法を、「クラシック表示」にしている場合は、コントロールパネル画面で「Windows ファイアウォール」をダブルクリックし、画面左側にある「Windows ファイアウォールによるプログラムの許可」をクリックします。

2 「例外」タブをクリックします。

3 「Network Device Search Application」にチェックを入れ、[OK]をクリックします。

### Windows XP の場合

1 ［スタート］メニューから「コントロールパネル」→「セキュリティ センター」→「Windows ファイアウォール」の順にクリックします。

   ※コントロールパネル画面の表示方法を、「クラシック表示」にしている場合は、コントロールパネルの画面で「Windows ファイアウォール」をダブルクリックします。

2 「例外」タブをクリックします。

3 「Network Device Search Application」のチェックボックスにチェックマークを入れ、[OK]をクリックします。

# アンインストールする



ドライバーをアンインストールするには、コンピューターの管理者または管理者に属するユーザーとしてコンピューターにログオンしてください。

Windows 8 の場合

1 「スタート画面」から「デスクトップ」をクリック→チャームの「設定」→「コントロールパネル」とクリックします。

2 「プログラム」の中の［プログラムのアンインストール］をクリックします。

3 アンインストールしたいドライバーを選択して、[アンインストール］をクリックします。

4 表示される画面の指示に従って、ドライバーをアンインストールします。

Windows Server 2012 R2 ／ Windows Server 2012 の場合

1 「スタート画面」から「コントロールパネル」をクリックします。

2 「プログラム」の中の［プログラムのアンインストール］をクリックします。

3 アンインストールしたいドライバーを選択して、[アンインストール］をクリックします。

4 表示される画面の指示に従って、ドライバーをアンインストールします。

Windows 7 ／ Windows Vista ／ Windows Server 2008 R2 ／ Windows Server 2008 の場合

1 ［スタート］→［コントロールパネル］→［プログラム］の順にクリックします。

2 ［プログラムと機能］をクリックします。

3 アンインストールしたいドライバーを選択して、[アンインストール］をクリックします。

4 表示される画面の指示に従って、ドライバーをアンインストールします。

Windows XP ／ Windows Server 2003 の場合

1 ［スタート］→［コントロールパネル］→［プログラムの追加と削除］の順にクリックします。

2 ［プログラムの変更と削除］をクリックします。

3 アンインストールしたいドライバーを選択して、［削除］をクリックします。

4 表示される画面の指示に従って、ドライバーをアンインストールします。

（空白ページ）

# 第 2 章

# コンピューターからファクスを送信する

# ファクスを送信する

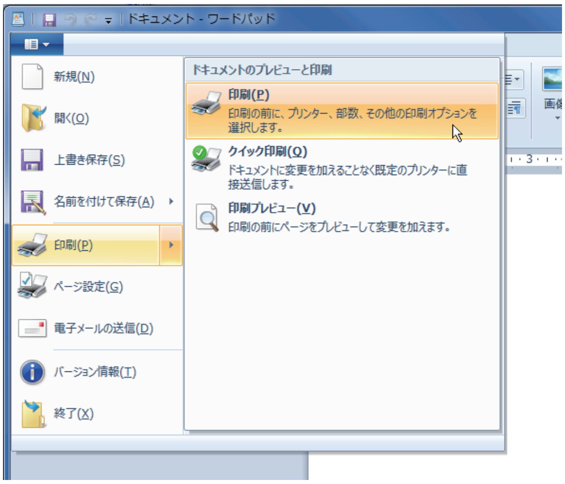
## アプリケーションソフトからファクスを送信する

アプリケーションソフトで作成した文書を、プリントせずにファクス送信したり、電子メールに添付して送信したりできます。
ここでは、Windows 7 に付属の「ワードパッド」を例に説明しています。お使いのアプリケーションソフトによって、操作方法が異なります。詳しくはお使いのアプリケーションソフトのマニュアルを参照してください。

**補 足**

この機能を利用する場合は、ファクスドライバーをコンピューターにインストールしてください。インストールのしかたは、「インストールのしかた」(1-4 ページ)を参照してください。

**1** ファイルの印刷指示をします。

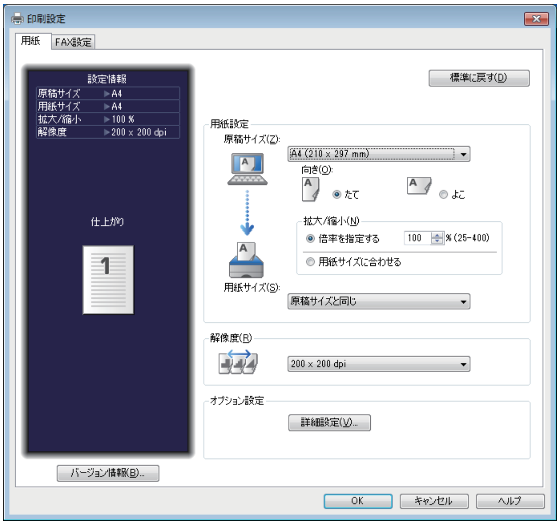



**2** プリンターの選択から、「NTTFAX T-360 Fax」を選択します。

**3** [詳細設定]をクリックし、NTTFAX T-360 Fax の印刷設定画面を開きます。

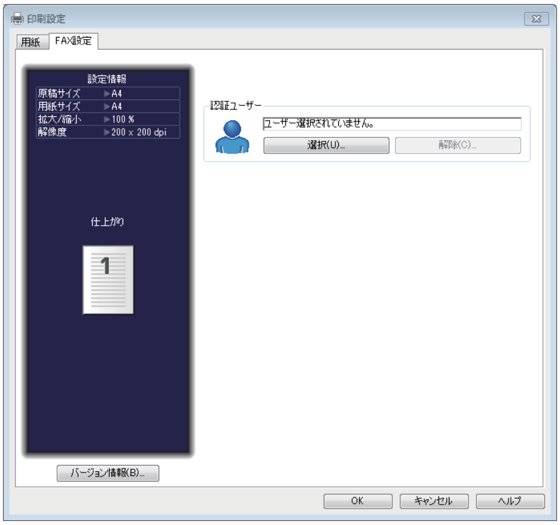
詳細設定を変更しない場合は、手順 7 に進みます。

## 4 ［用紙］タブをクリックし、必要に応じて設定をします。




| 項目 | | 設定内容 |
|---|---|---|
| 用紙設定 | 原稿サイズ | 作成した文書の原稿サイズを選択します。 |
| | 向き | 作成した文書の向きを選択します 。 |
| | 拡大 / 縮小 | 原稿を拡大または縮小して送信するときに設定します。<br>「倍率を指定する」:<br>25 ～ 400 %の間で指定したい倍率を選択します。<br>「用紙サイズに合わせる」:<br>原稿サイズと用紙サイズを選択することで、自動的に倍率が設定されます。 |
| | 用紙サイズ | 送信するときの用紙サイズを選択します。<br>「原稿サイズと同じ」を選択すると、選択した原稿サイズと同じ用紙サイズで送信します。 |
| 解像度 | | 解像度を選択します。<br>200 × 200 dpi<br>400 × 400 dpi |
| オプション設定 | 詳細設定 | ［グラフィックエンハンスドモード］<br>アプリケーションによっては、イメージデータの処理が遅かったり、正しく印刷できなかったりすることがあります。<br>そのような場合に、この設定にチェックを入れると正しく印刷できる場合があります。<br>印刷結果に問題がない場合は、チェックを外してください。 |

## 5 個人の宛先表を使用する場合は、[FAX 設定] タブをクリックし、認証ユーザーの［選択］をクリックしてユーザーを選択します。



## 6 [OK] をクリックし、印刷設定画面を閉じます。

## 7 [印刷] をクリックします。

## 8 「宛先設定」タブで、宛先を入力します。



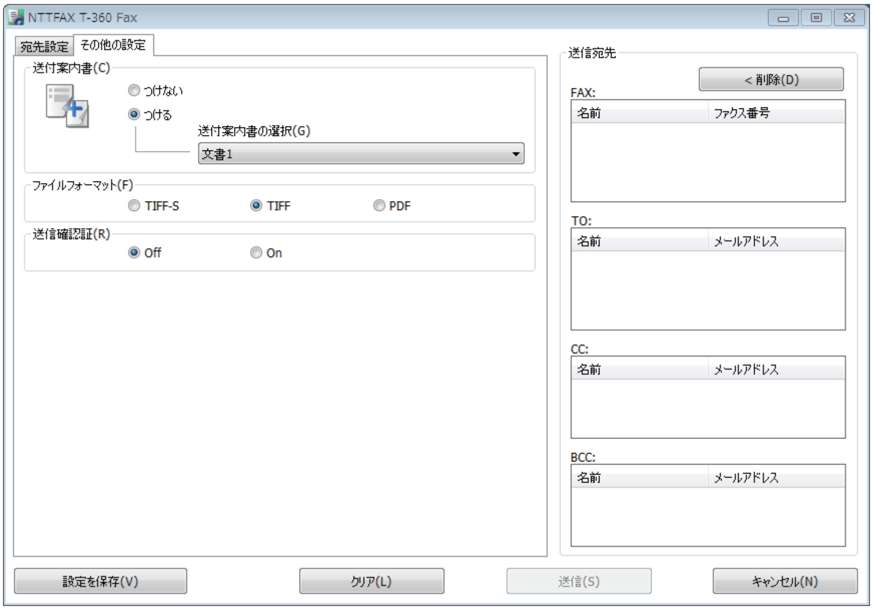
以下のいずれかの方法で宛先を入力できます。

・宛先表から宛先を選択し、[FAX>]、[TO>]、[CC>]、または [BCC>] をクリックします。
・「文字検索」の欄に検索のキーワードを入力して［検索］をクリックし、宛先を検索できます。検索結果は［検索結果］タブに表示されます。
・直接ファクス番号を入力する場合は、「ファクス番号」欄に入力し、[FAX>] をクリックします。ポーズなどのダイヤル記号もキーボードを使って入力できます。ダイヤル記号については、『取扱説明書』第 2 章の「送信に関する設定」の「ダイヤル記号について」を参照してください。
・直接メールアドレスを入力する場合は、「メールアドレス」欄に入力し、[TO>]、[CC>] または [BCC>] をクリックします。

| 項目 | | 設定内容 |
|---|---|---|
| 宛先表 | 文字検索 | 宛先を検索する場合は、ここに検索のキーワードを入力します。 |
| | 絞り込み | 個人と共有のどちらの宛先表を表示するのか選択します。 |
| | 宛先表 | 宛先表は、「宛先表の絞り込み」によって名前の読みがなの順に表示されます。 |
| 宛先入力 | ファクス番号 | 宛先のファクス番号を入力します。 |
| | メールアドレス | 宛先のメールアドレスを入力します。 |
| [FAX>]、[TO>]、[CC>]、[BCC>] ボタン | | 「宛先入力」に宛先を入力するか、「宛先表」の宛先を選択して各ボタンをクリックすると、入力または選択した宛先が送信宛先に追加されます。 |
| 送信宛先 | FAX | 選択したファクスの宛先が表示されます。 |
| | TO | 選択した電子メールの宛先が表示されます。 |
| | CC | 選択した電子メールの Cc 宛先が表示されます。 |
| | BCC | 選択した電子メールの Bcc 宛先が表示されます。 |
| | [< 削除] | 送信宛先から宛先を削除する場合は、削除したい宛先を選択し、[削除] をクリックします。 |
| [設定を保存] | | 現在の [宛先設定] タブと [その他の設定] タブの状態を保存します。何度も同じ設定をする場合は、保存しておくと設定の手間が省けて便利です。 |
| [クリア] | | 現在の [宛先設定] タブと [その他の設定] タブの状態を初期値に戻します。 |
| [送信] | | [送信] をクリックすると送信が始まります。 |
| [キャンセル] | | クリックすると、画面が閉じます。 |

**9** **複数の宛先を指定する場合は、手順 8 の操作を繰り返します。**

**10** **送付案内書の設定をする場合は、「その他の設定」タブをクリックします。**



| 項目 | | 設定内容 |
|---|---|---|
| 送付案内書 | つけない・つける | 送付案内書をつけるかどうか設定します。<br>「つける」を選択したときは、テンプレートを選択します。 |
| 送信宛先 | FAX | 選択したファクスの宛先が表示されます。 |
| | TO | 選択した電子メールの宛先が表示されます。 |
| | CC | 選択した電子メールの Cc 宛先が表示されます。 |
| | BCC | 選択した電子メールの Bcc 宛先が表示されます。 |
| | [< 削除] | 送信宛先から宛先を削除する場合は、削除したい宛先を選択し、[< 削除] をクリックします。 |
| ファイルフォーマット | | 電子メールで送信するときに、アプリケーションで作成した原稿を変換するファイルのフォーマットを選択します。<br>TIFF-S： 原稿はすべて A4 サイズ、200dpi 以下に変換して送信されます。相手機が TIFF ファイルを受信できない場合は、このファイル形式を選択してください。<br>TIFF： TIFF 形式です。<br>原稿読み取り時の原稿サイズおよび解像度のまま送信します。<br>PDF： PDF 形式です。<br>送信相手がコンピューターの場合や本商品のインターネットファクスの場合はこの形式で送信できます。 |
| 送信確認証 | | 本商品で送信確認証をプリントするかどうか設定します。 |
| [設定を保存] | | 現在の [宛先設定] タブと [その他の設定] タブの状態を保存します。何度も同じ設定をする場合は、保存しておくと設定の手間が省けて便利です。 |
| [クリア] | | 現在の [宛先設定] タブと [その他の設定] タブの状態を初期値に戻します。 |
| [送信] | | [送信] をクリックすると送信が始まります。 |
| [キャンセル] | | クリックすると、画面が閉じます。 |

## 11 「送信宛先」欄の宛先を確認し、[送信 (S)] をクリックします。

宛先を削除する場合は、削除したい宛先を選択して [< 削除] をクリックします。

**補足**

送信を中止したい場合は、本商品の〈通信確認 / ファクス中止〉を押してください。詳しくは、『取扱説明書』第 2 章の「ファクスを中止・確認する」を参照してください。

# 電子メールでファクスを送信する

電子メールの本文にファクス番号を入力して本商品に送信すると、電子メール本文と添付ファイルをファクスで送信できます。

**1** **メールソフトにて、電子メールを作成します。**

**2** **電子メールの本文にファクス番号を入力します。**

・ファクス番号は以下の形式で、必ず行の先頭からすべて半角で入力してください。
FAXNO:=< ファクス番号 >
・ファクス番号は 30 宛先まで指定できます。
・ファクス番号は 1 宛先につき 40 桁以内で入力してください。
・複数のファクス番号を指定する場合は、カンマ（,）で区切ります。
例：FAXNO:=<123xxxxxxx,789xxxxxxx>

**3** **必要に応じて、ファイルを添付します。**

ファクスへ送信できるファイルは、以下のとおりです。
・TiffMaker で作成した TIFF ファイル
・本商品のインターネットファクス機能を使って作成した、TIFF ファイルまたは白黒の PDF ファイル

**4** **本商品あてに電子メールを送信します。**

**補 足**

- 本商品に、電子メール送受信環境の設定が必要です。(→ 4-36 ページ)
- TiffMaker については、「電子メール用の TIFF ファイルを作成する」（2-8 ページ）を参照してください。
- ネットワーク設定画面の「メールオプション設定」で、ファクス転送処理に関する設定ができます。詳しくは、「電子メール運用環境を設定する」（4-39 ページ）を参照してください。

# 電子メール用の TIFF ファイルを作成する

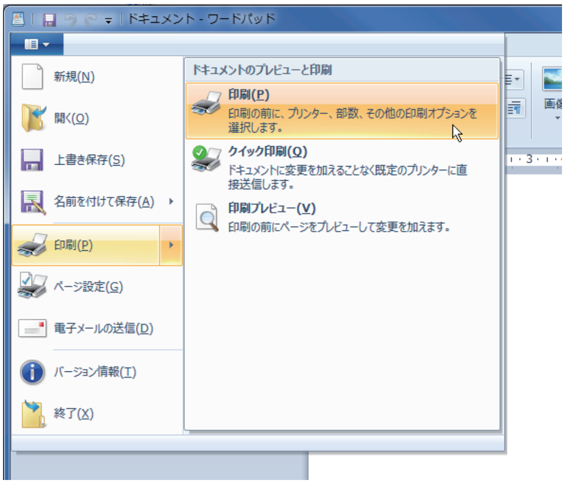
NTTFAX TiffMaker を使って、アプリケーションソフトで作成した原稿を、電子メールでファクスを送信するときに利用できる TIFF ファイルに変換します。

補 足

あらかじめ、TiffMaker ドライバーをコンピューターにインストールする必要があります。インストールのしかたについては、「インストールのしかた」（1-4 ページ）を参照してください。

ここでは、Windows 7 に付属している「ワードパッド」を例に説明しています。
お使いのアプリケーションソフトによって操作方法が異なります。詳しくはお使いのアプリケーションソフトのマニュアルを参照してください。

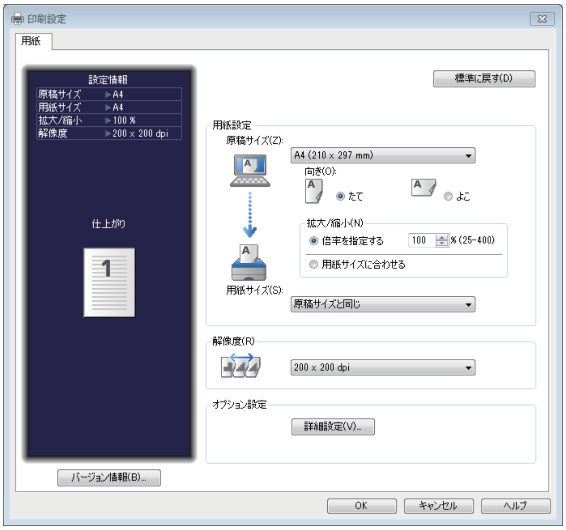
**1** ファイルの印刷指示をします。




**2** プリンターの選択から、「NTTFAX TiffMaker」を選択します。

**3** ［詳細設定］をクリックし、TiffMaker の印刷設定画面を開きます。
詳細設定を変更しない場合は、手順 6 に進みます。

**4** 必要に応じて設定を変更します。




| 項目 | | 設定内容 |
|---|---|---|
| 用紙設定 | 原稿サイズ | 作成した文書の原稿サイズを選択します。 |
| | 向き | 作成した文書の向きを選択します。 |
| | 拡大 / 縮小 | 原稿を拡大または縮小して送信するときに設定します。<br>「倍率を指定する」:<br>25 ～ 400 %の間で指定したい倍率を選択します。<br>「用紙サイズに合わせる」:<br>原稿サイズと用紙サイズを選択することで、自動的に倍率が設定されます。 |
| | 用紙サイズ | 出力する画像の用紙サイズを選択します。<br>「原稿サイズと同じ」を選択すると、選択した原稿サイズと同じ用紙サイズで出力します。 |
| 解像度 | | 解像度を選択します。<br>200 × 200 dpi<br>400 × 400 dpi<br>600 × 600 dpi |
| オプション設定 | 詳細設定 | [グラフィックエンハンスドモード]<br>アプリケーションによっては、イメージデータの処理が遅かったり、正しく印刷できなかったりすることがあります。<br>そのような場合に、この設定にチェックを入れると正しく印刷できる場合があります。<br>印刷結果に問題がない場合は、チェックを外してください。 |

**5** [OK] をクリックし、印刷設定画面を閉じます。

**6** [印刷] をクリックします。

**7** ファイルを保存する場所とファイル名を入力し、[保存] を押します。

（空白ページ）

# 第 3 章

# ネットワーク設定画面について

# ネットワーク設定画面を使ってできること

本商品の機能と連携し、ネットワーク環境から本商品の状態を確認したり設定したりできます。






# ネットワーク設定画面で使用する画面について

基本となる操作画面について説明します。

## ホーム画面

本商品の状態を表示しています。本商品の液晶ディスプレイの表示も、画面上で表示できます。詳細は『取扱説明書』第 7 章の「機器情報を確認する」を参照してください。

### ❏ 機器状態




機器の状態や情報を表示しています。詳細は「機器状態を表示する」(4-77 ページ)を参照してください。

| 番号 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 登録情報 | ネットワーク設定画面にて登録した機器名称などの登録情報です。 |
| 2 | 機器状態 | ネットワークや通信回線の状態、機器の状態、読み取り・印字の枚数を表示します。 |
| 3 | ソフトウェア Ver. | 本商品のソフトウェアのバージョン情報を表示します。 |

### ❏ ヘッダー部の名称と機能




| 番号 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | [ユーザー画面] | [ユーザー画面] をクリックすると、ログイン画面が表示されます。(→ 3-5 ページ) |
| 2 | [管理画面] | [管理画面] をクリックすると、管理画面が表示されます。管理者パスワードを設定したときは、管理画面へのログイン画面が表示されます。(→ 3-12 ページ) |

## ❑ 液晶ディスプレイの状態を表示する（パネル表示）

本商品の液晶ディスプレイの状態を、ネットワーク設定画面上で確認できます。

**1** **［パネル表示］をクリックします。**

液晶ディスプレイの状態を表示します。

**2** **表示内容を確認します。**



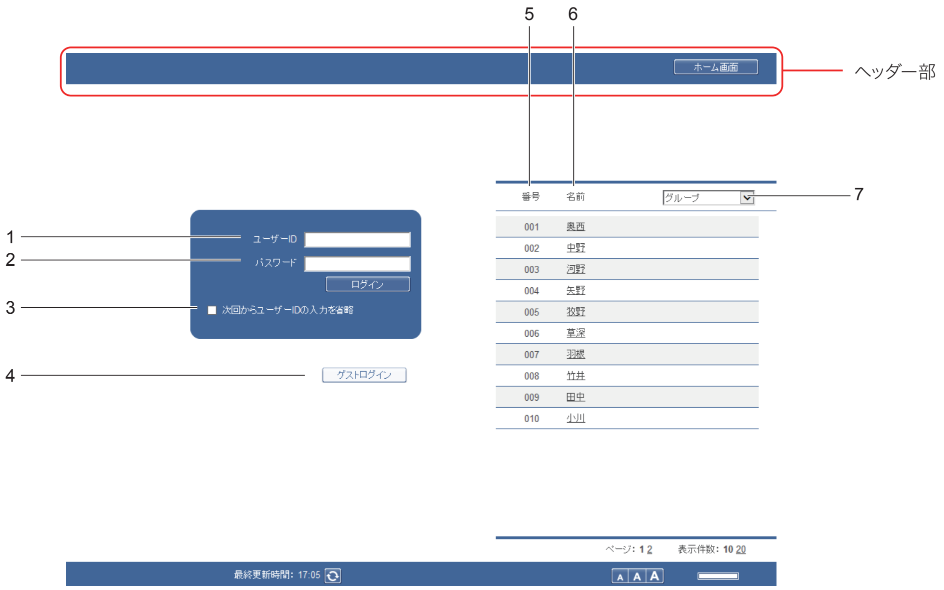

補 足

本商品が次のような状態のときは、表示が更新されません。

- 本商品の操作を行っているとき。
- 原稿を読み取っているとき。
- 本商品側でユーザーログインしているとき。
- 本商品が省エネモードになっているとき。

# ログイン画面

機器設定・機器情報画面にログインするための画面です。詳細は「ログインする／ログアウトする」（3-10 ページ）を参照してください。




## ❑ ユーザー ID 入力ボックス

ユーザー ID とパスワードを直接入力します。

| 番号 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | ユーザー ID | ログインしたいユーザーの ID を入力します。ユーザー一覧が表示されているときは、名前を選択するとユーザー ID が自動的に入力されます。 |
| 2 | パスワード | ユーザー ID に対するパスワードを入力します。 |
| 3 | 次回からユーザー ID の入力を省略 | チェックすると、最後に入力したユーザー ID を記憶します。 |
| 4 | ゲストログイン | ゲストユーザーとしてログインします。 |

## ❑ ユーザー ID 選択

表示されているユーザー一覧から、ログインしたいユーザーを選択します。ユーザーを選択すると、ユーザー ID 入力ボックスにユーザー ID が自動的に入力されます。

| 番号 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 5 | 番号 | ユーザー登録時の番号を示します。 |
| 6 | 名前 | 登録されているユーザー名が表示されます。<br>ユーザー名が設定されていない場合は、ユーザー ID が表示されます。 |
| 7 | グループ | ユーザーが所属するグループ名が表示されます。<br>グループ名でユーザーを絞り込めます。 |

**補 足**

マシンポリシー設定によって、ユーザー一覧を表示させないようにできます。マシンポリシー設定は「マシンポリシーを設定する」（4-63 ページ）を参照してください。

## ❑ ヘッダー部の名称と機能




| 番号 | 項目 | 内容 |
| --- | --- | --- |
| 1 | [ホーム画面] | [ホーム画面] をクリックすると、ホーム画面が表示されます。(→ 3-3 ページ) |

# 機器設定・機器情報画面

本商品の情報を表示したり、設定を行ったりする画面です。詳細は「機器設定・機器情報一覧」(4-3 ページ)を参照してください。ログイン方法によって、表示される画面および設定できる項目が異なります。

### [管理画面] ログイン時




### ユーザーログイン時




**補 足**

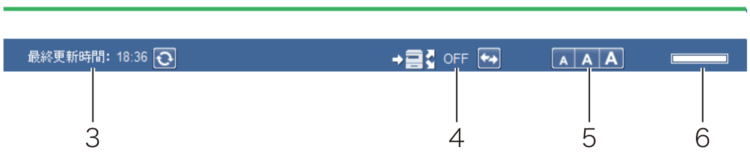
管理者パスワードを設定したときは、管理画面へのログイン画面が表示されます。(→ 3-12 ページ)

## ❑ ヘッダー部の名称と機能




| 番号 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | ログイン名表示 | 画面によって表示が変わります。<br><br>ログイン前：　　　　何も表示されません。<br>ユーザーログイン後：ログインしているユーザーの番号とユーザー名が表示されます。<br>管理画面ログイン後：使用している機器名が表示されます。<br>ゲストログイン後：　「ゲスト」と表示されます。 |
| 2 | ［ログアウト］ | ［ログアウト］をクリックすると、ログアウト処理され、ログイン画面に戻ります。<br><br>**補 足**<br>ユーザーが 1 人も登録されていない場合、管理画面でログアウトを実行すると、自動的にゲストログインが実行されます。その後、ゲストログイン後の画面が表示されます。 |

## ❑ フッター部の名称と機能




| 番号 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 3 | 画面更新時間および<br>ボタン | 画面が更新された時間（時：分）を表示します。<br>をクリックすると、画面の更新を行います。 |
| 4 | 自動配信設定切り替え | 現在の自動配信の設定状態を表示します。設定状態が有効になっている場合は「ON」、無効になっている場合は「OFF」と表示されます。<br>をクリックすることで ON ／ OFF を切り替えられます。<br><br>**補 足**<br>ゲストまたはユーザーログイン時は、自動配信設定切り替えは表示されません。 |
| 5 | フォントサイズ変更 | フォントサイズを 3 段階（大･中･小）で表示します。（初期値は「中」）<br>フォントサイズは設定を変更しない限り、ログアウトしても変わりません。 |
| 6 | ディスク残量表示 | 本商品のディスク残量をグラフでイメージ表示します。グラフ表示は 4 段階で切り替わります。<br>マウスカーソルをグラフまで移動させると、現在の残量が数値で表示されます。<br><br>**補 足**<br>ディスク残量がない、または、代行受信が 100 件になっている等でファクス受信できない場合、⚠ が表示されます。<br>代行受信になる原因を解除して、代行受信文書をプリントしてください。または、不要な蓄積文書や通信予約の削除をするか、通信予約の実行を待ってください。 |

# ネットワーク設定画面にアクセスする

ネットワーク設定画面を利用するには、Web ブラウザーを使用します。利用できる Web ブラウザーについては、「主な仕様」を参照してください。本書では、Internet Explorer を使用して説明します。

## Web ブラウザーから直接アクセスする

**1** **Web ブラウザーを起動します。**

**2** **Web ブラウザーの「アドレスバー」に本商品の IP アドレスを入力し、キーボードの〈Enter〉を押します。**




**補 足**

- 本商品の IP アドレスが分からない場合は、操作パネルの〈メニュー〉→「機器情報」→［確定］→「ネットワーク設定」→［確定］を押して IP アドレスを確認してください。
- LAN（有線）が OFF のときは、ネットワーク設定画面にアクセスできません。詳細は『取扱説明書』第 1 章の「初期設定をする（設置モード）」の「LAN（有線）を設定する」を参照してください。

## インストーラー画面からアクセスする

インストーラー画面にある［機器設定（管理者用）］ボタンをクリックすると、Web ブラウザーが起動し、機器設定・機器情報画面が表示されます。

**1** **コンピューターの電源を入れ、「セットアップディスク」CD-ROM を入れます。**

・インストールプログラムが自動的に起動し、インストールメニュー画面が表示されます。
・自動再生の画面が表示されたときは、［InstMenu.exe の実行］をクリックします。
・「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されたら、［許可］または［はい］をクリックします。
・インストールプログラムが自動的に起動しない場合は、「セットアップディスク」CD-ROM の中の「InstMenu.exe」アイコンをダブルクリックしてください。

**2** **インストーラー画面にある［機器設定（管理者用）］をクリックします。**

**3** **本商品の IP アドレスを入力します。**

［検索］をクリックして、ネットワーク上の機器を検索することもできます。（→ 1-5 ページ）

**4** **［表示］をクリックします。**

［管理画面］をクリックしてログインしたときの、機器設定・機器情報画面が表示されます。
（→ 3-7 ページ）

# ログインする／ログアウトする

利用者個人ごとに本商品を使用するときは、個人ごとのユーザーを登録し、ログインを行います。ユーザーの新規作成については、「使用するユーザーを登録する」（4-5 ページ）を参照してください。

## ログインする

機器設定・機器情報画面にログインする方法には、「ユーザーログイン」、「ゲストユーザーログイン」、「管理画面ログイン」の 3 つの方法があります。

| ログイン方法 | 内容 |
|---|---|
| ユーザー | ユーザー ID とパスワードなどのユーザー情報を作成することで、ユーザーごとに個別の設定が行えます。また、機器情報を確認したり、一部の機器設定を行ったりすることができます。 |
| ゲストユーザー | パスワード入力をせずにログインします。また、機器情報を確認したり、一部の機器設定を行ったりすることができます。 |
| 管理画面 | 機器情報を確認したり、機器設定を行ったりできます。「マシンポリシー設定」で管理者パスワードを設定すれば、ログイン画面を表示させることができます。(→ 4-63 ページ) |

### ❑ ユーザー一覧からログインする場合

ユーザー一覧からログインしたいユーザーを選択します。ユーザーを選択すると、ユーザー ID が自動入力されます。

**1** **[ ユーザー画面 ] をクリックします。**

**2** **ユーザー一覧でユーザー名をクリックします。**

「ユーザー ID」には、クリックしたユーザー名のユーザー ID が自動的に入力されます。



## 3 「パスワード」を入力し、[ログイン] をクリックします。




パスワードが登録されていないときは、パスワード欄に何も入力せずに［ログイン］をクリックします。

**補 足**

- ユーザーの新規登録については、「使用するユーザーを登録する」(4-5 ページ) を参照してください。
- ユーザーが 1 人も登録されていないときは、[ ユーザー画面 ] をクリックした後に自動的にゲストログインが実行され、ゲストユーザーの画面が表示されます。

### ❏ ユーザー ID を入力してログインする場合

他者にユーザー ID を知られたくない場合は、ユーザー一覧を非表示にして、ユーザー ID とパスワードを直接入力させることができます。(→ 4-63 ページ)

## 1 「ユーザー ID」および「パスワード」を入力し、[ログイン] をクリックします。




**補 足**

「次回からのユーザー ID の入力を省略」にチェックを入れると、入力したアカウント ID がご使用のコンピューターに記憶されます。次回のアクセスから記憶されたユーザー ID が自動的に入力されるようになります。

## ❏ ゲストログインについて

ユーザー ID およびパスワードを入力せずにログインできます。「マシンポリシー設定」で、「ゲストアカウントの設定」が OFF に設定されているときは、ゲストログインはできません。(→ 4-63 ページ)

### 1 ［ゲストログイン］をクリックします。




**補 足**

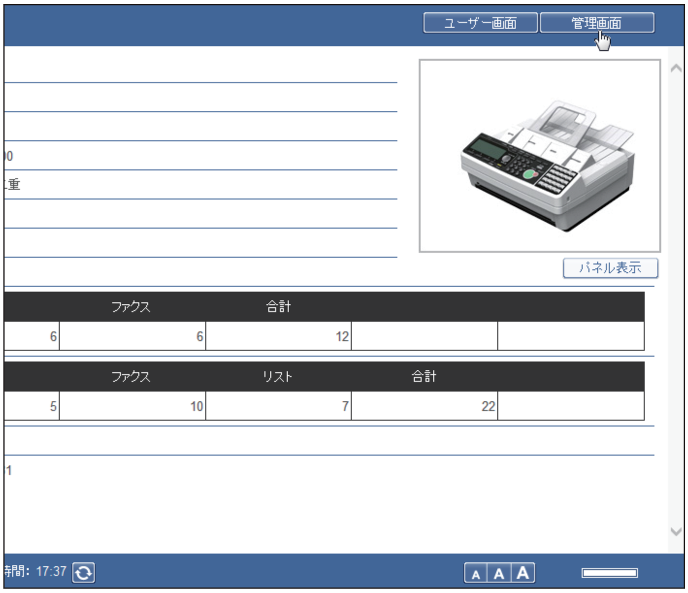
ユーザーが 1 人も登録されていないときは、[ ユーザー画面 ] をクリックした後に自動的にゲストログインが実行され、ゲストユーザーの画面が表示されます。

## ❏ 管理画面ログインについて

［管理画面］をクリックすると、「管理画面」が表示されます。
機器管理設定の「セキュリティー設定」-「マシンポリシー設定」(→ 4-63 ページ)で管理者パスワードを設定しているときは、管理画面へのログイン画面が表示されます。

### 1 ［管理画面］をクリックします。

管理者パスワードを設定している場合は、手順 2 に進みます。



**2** 管理者パスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

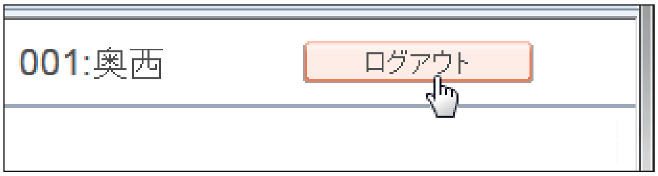



# ログアウトする

ほかの利用者に切り替える場合はログアウトを行います。特に、複数の利用者が 1 台のコンピューターを使用している場合は、ログインしたままではほかの利用者に設定内容を見られてしまいます。セキュリティーを守るために、必ずログアウトしてください。

**1** [ログアウト] をクリックします。

ログイン画面に戻ります。




補足

ユーザーが登録されていないとき、ログアウトするとホーム画面が表示されます。

（空白ページ）

# 第 4 章

# 各機能の設定

# 機器設定・機器情報一覧

ネットワーク設定画面では以下の設定が可能です。管理画面にログインしたときはすべての設定が可能です。ユーザーおよびゲストでログインしたときは、設定できる項目が制限されます。

| 設定項目 | | 概要 | ログイン | | | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 管理画面 | ユーザー | ゲスト | |
| ユーザー情報 | | | | | | |
| | ユーザー登録 | ユーザーの新規登録、コピー、削除、インポート、エクスポート。 | ✓ | ✓ | | 4-5 |
| | 宛先表 | 宛先表の新規登録、コピー、削除、インポート、エクスポート。グループの新規登録、コピー、削除。 | ✓ | ✓ | ✓ | 4-12 |
| | フォルダーショートカット | フォルダーショートカットの新規登録、コピー、削除。 | ✓ | | | 4-27 |
| | メール定型文 | メール定型文のテンプレートの新規登録、コピー、削除。 | ✓ | ✓ | ✓ | 4-31 |
| 機器設定 | | | | | | |
| | TCP/IP 設定 | ホスト名やワークグループ名、IP アドレス、DHCP、DNS のネットワーク設定。 | ✓ | | | 4-34 |
| | メール設定 | SMTP/POP 設定およびメールオプション設定。インターネットファクスやメールを利用するための設定。 | ✓ | | | 4-36<br>4-39 |
| | インターネット時刻設定 | インターネット時刻サーバーを使用して、時計を同期するための設定。 | ✓ | | | 4-42 |
| | 本体機器設定 | ネットワーク接続速度切り替え、タイムゾーンの設定や、ダイヤル種別やファクス受信モードなど、設置モードの設定。 | ✓ | | | 4-43 |
| | 本体初期値設定 | コピー・メール・ファクス各機能の初期値の設定。 | ✓ | ✓ | ✓ | 4-45 |

| 設定項目 | | | 概要 | ログイン | | | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 管理画面 | ユーザー | ゲスト | |
| 機器管理設定 | | | | | | | |
| | 自動配信 | | 自動配信の新規登録、コピー、削除。 | ✓ | | | 4-46 |
| | ユーザー使用状況管理 | | コピー、ファクス、スキャン、プリントの使用枚数や料金の集計および設定。 | ✓ | | | 4-58 |
| | セキュリティー設定 | | | | | | |
| | | アクセス制限 | MAC アドレス、IP アドレスによる、外部ネットワークからのアクセス制限。 | ✓ | | | 4-61 |
| | | マシンポリシー | アカウント設定、初期ユーザーポリシー、サービス設定。 | ✓ | | | 4-63 |
| | アーカイブ設定 | | 送信済みファクス、送信済みインターネットファクス、受信済みファクス、受信済みインターネットファクスの文書をフォルダーに保存したり、ほかのファクスへ送信したりするための設定。 | ✓ | | | 4-66 |
| 機器情報 | | | | | | | |
| | 通信ジョブ | | ファクスおよび電子メールの送信予約の状況、および実行中の通信ジョブの進行状況、実行中の通信ジョブの中止。 | ✓ | ✓ | ✓ | 4-72 |
| | 機器状態 | | 現在の機器の状態表示、機器固有の名前や設置場所の設定。 | ✓ | ✓ | ✓ | 4-77 |
| | 通信履歴 | | 送受信した通信履歴の表示、および通信履歴の印刷やダウンロード。 | ✓ | ✓ | ✓ | 4-75 |

空白 : 権限設定されていない

✓: 権限設定されている

# 使用するユーザーを登録する

本商品を利用者ごとに使用する場合は、はじめに使用するユーザーを登録する必要があります。
ユーザー登録の方法には、ユーザー情報の設定画面から登録する方法と、vCard 形式の外部ファイルから読み込む方法があります。



## 「ユーザー登録」画面について

「ユーザー登録」画面は登録されたユーザーが一覧表示されている画面です。
この画面でユーザー情報を新規登録したり、変更したりできます。




### ボタン

| 番号 | ボタン名 | 用途 |
|---|---|---|
| 1 | [新規登録] | ユーザー情報を新規登録します。 |
| 2 | [コピー] | すでに登録済みのユーザー情報をコピーします。編集することで別のユーザー情報として使用できます。 |
| 3 | [削除] | ユーザー情報を削除します。 |
| 4 | [インポート] | ユーザー情報を外部ファイルから読み込みます。 |
| 5 | [エクスポート] | ユーザー情報を指定のファイル形式で書き出します。 |

**一覧表項目**

| 番号 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 6 | 登録可能件数表示 | 登録可能なユーザー件数が表示されます。 |
| 7 | 番号 | 任意に付けられた番号です。 |
| 8 | 名前 | 登録した名前が表示されます。名前が登録されていないときは、ユーザー ID が表示されます。 |
| 9 | グループ | ユーザーが所属するグループ名が表示されます。グループ名で表示するユーザーを絞り込むこともできます。 |
| 10 | ページ | 宛先情報が 1 画面に収まらない場合、ページを切り替えて表示します。(表示件数の設定によってページ数は変わります) |
| 11 | 表示件数切り替え | 1 画面で表示できる件数（10 件、20 件）を切り替えます。 |

# ユーザーを登録する

ユーザー情報を新規登録します。ユーザー登録は、ユーザー情報の設定画面で行います。

**補 足**

ユーザー情報は最大 20 件まで登録できます。

**1** **［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。****(→ 3-10 ページ)**

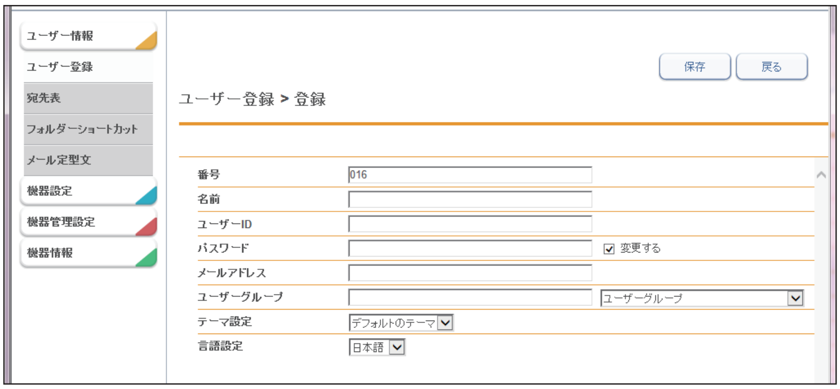
管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［ユーザー情報］をクリックし、［ユーザー登録］をクリックします。**

**3** **［新規登録］をクリックします。**




**4** **ユーザー情報を登録します。**



| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| 番号 | ユーザー番号を入力します。 | 001 ～ 020 |
| 名前 | ユーザー名を入力します。 | 全角 32 文字（半角 64 文字） |
| ユーザー ID | ユーザーを識別するための略称を入力します。ユーザー ID の重複はできません。必ず入力してください。ユーザー ID に / \ [ ] " : ; \| < > + = , ? * は使用できません。 | 全角 32 文字（半角 64 文字） |
| パスワード | ログインするためのパスワードを入力します。入力するときは、「変更する」にチェックを入れます。 | 半角英数記号 28 文字 |
| メールアドレス | ユーザーのメールアドレスを入力します。 | 半角英数記号 50 文字 |
| ユーザーグループ | ユーザーが所属するグループ名を入力します。ユーザーグループを登録すると、ユーザーグループへ送信したり保存したりできるようになります。<br>すでに登録されているグループ名があるときは、右のプルダウンメニューから選択もできます。 | 全角 15 文字（半角 30 文字） |
| テーマ設定 | 画面表示の色合いを選択します。 | デフォルトのテーマ<br>ハイコントラスト<br>ローコントラスト |
| 言語設定 | ログイン後の表示言語を選択します。 | 日本語<br>English |

**5** **［保存］をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 3 から操作を繰り返します。

補 足

- —の付いている値が、工場出荷時の設定です。
- 番号、ユーザー ID が重複しているときは保存できません。設定を見直してください。

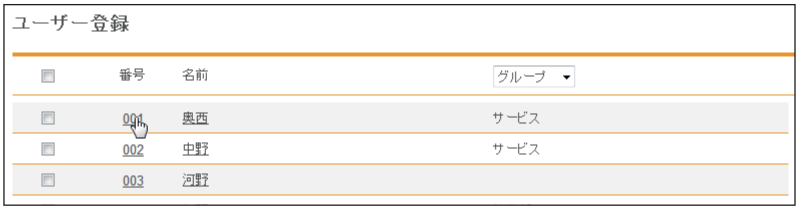
## ❑ ユーザー情報を変更する

一度登録したユーザー情報をあとから変更できます。

**1** **「ユーザー登録」一覧画面を表示します。**

「ユーザーを登録する」（4-6 ページ）を参照してください。

**2** **変更するユーザーの番号または名前をクリックします。**



**3** ユーザー情報を変更します。

**4** ［保存］をクリックします。

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 2 から操作を繰り返します。

補 足

変更しようとしたユーザーのメールアドレスが通信ジョブで使用されているときは、「実行中のジョブがあるため、メールアドレスを変更できません。」とエラーが表示されます。通信ジョブが終了するまで待ってから変更してください。

## 既存のユーザー情報を利用して新規登録する（コピー）

すでに登録済みのユーザー情報を利用して新規ユーザーを登録します。
コピーできるユーザー情報の項目はユーザーグループだけです。

補 足

一度に複数のユーザー情報はコピーできません。

**1** ［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。（→ 3-10 ページ）

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** ［ユーザー情報］をクリックし、［ユーザー登録］をクリックします。

**3** コピー元となるユーザーのチェックボックスにチェックを入れます。

**4** ［コピー］をクリックします。




**5** 新規登録するユーザーの情報に合わせて設定を変更します。

**6** ［保存］をクリックします。

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 3 から操作を繰り返します。

# ユーザー情報を削除する

不要になったユーザー情報を「ユーザー情報」一覧画面から削除します。

**補足**

操作パネルからログインしているユーザーは削除できません。また、自動配信やジョブメモリーに登録されているユーザーも削除できません。

**1** **［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。**（→ 3-10 ページ）

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［ユーザー情報］をクリックし、［ユーザー登録］をクリックします。**

**3** **削除するユーザー情報のチェックボックスにチェックを入れます。**

**4** **［削除］をクリックします。**




・一番上のチェックボックスにチェックを入れると、すべてのユーザー情報にチェックが入ります。
・チェックを解除するには、再度チェックボックスをクリックします。

**5** **［OK］をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 3 から操作を繰り返します。

## ユーザー情報を外部ファイルからインポートして登録する

vCard フォーマットの外部ファイルからデータを読み込み、ユーザー情報として登録します。
インポートできるユーザー情報の項目および vCard の項目名は、以下のとおりです。
(　) 内の単語が vCard の項目名です。

- 表示名（N）
- ユーザー ID（FN）
- 電子メールアドレス（EMAIL）

補足

- vCard フォーマット以外のファイルからはインポートできません。
- 「ユーザー ID」がすでに登録されているときは、そのユーザー情報に読み込んだ情報を上書きします。

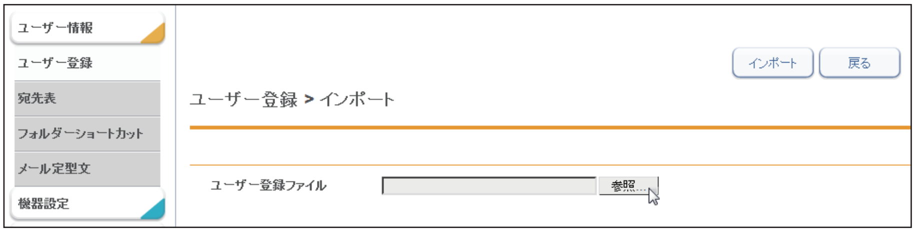
**1** **［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。****(→ 3-10 ページ)**

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［ユーザー情報］をクリックし、［ユーザー登録］をクリックします。**

**3** **［インポート］をクリックします。**

**4** **［参照］をクリックして、インポートするファイルの場所と名前を指定します。**




**5** **［インポート］をクリックします。**

確認のメッセージが表示されます。

**6** **［OK］をクリックします。**

これで手順は終了です。

補足

一覧画面に戻ったときに、成功したレコード数が表示されます。失敗したときは、以下の原因が表示されます。

- インポートファイルが解析できませんでした。
- 不正なメールアドレスが含まれていたため、インポートに失敗しました。
- 不正なユーザー ID が含まれていたため、インポートに失敗しました。
- 設定の上限数を超えたため、登録できませんでした。
- ユーザー ID が重複していたため、インポートに失敗しました。

# 登録されたユーザー情報を外部ファイルとしてエクスポートする

選択したユーザー情報を vCard フォーマットの外部ファイルとして書き出します。
複数のユーザー情報を選択できます。

エクスポートできるユーザー情報の項目および vCard の項目名は、以下のとおりです。(　)内の単語が vCard の項目名です。

- 表示名（N）
- ユーザー ID（FN）
- 電子メールアドレス（EMAIL）

**補 足**

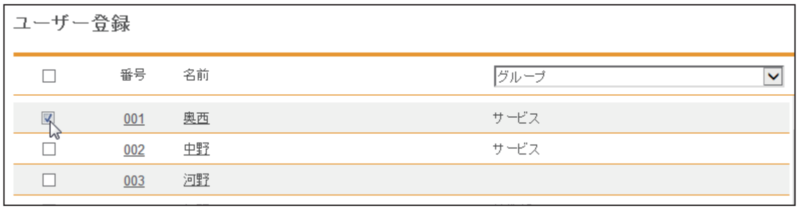
複数のユーザー情報を選択した場合でも書き出すファイルは 1 ファイルのみです。

**1** **［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。**(→ 3-10 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［ユーザー情報］をクリックし、［ユーザー登録］をクリックします。**

**3** **エクスポートするユーザー情報のチェックボックスにチェックを入れます。**




・一番上のチェックボックスにチェックを入れると、すべてのユーザー情報にチェックが入ります。
・チェックを解除するには、再度チェックボックスをクリックします。
・ユーザーを選択せずに［エクスポート］を押すと、すべてのユーザーをエクスポートします。

**4** **［エクスポート］をクリックします。**

**5** **［保存］をクリックします。**

**6** **保存する場所と名前を指定し、［保存］をクリックします。**

これで手順は終了です。

# 宛先表を作成する

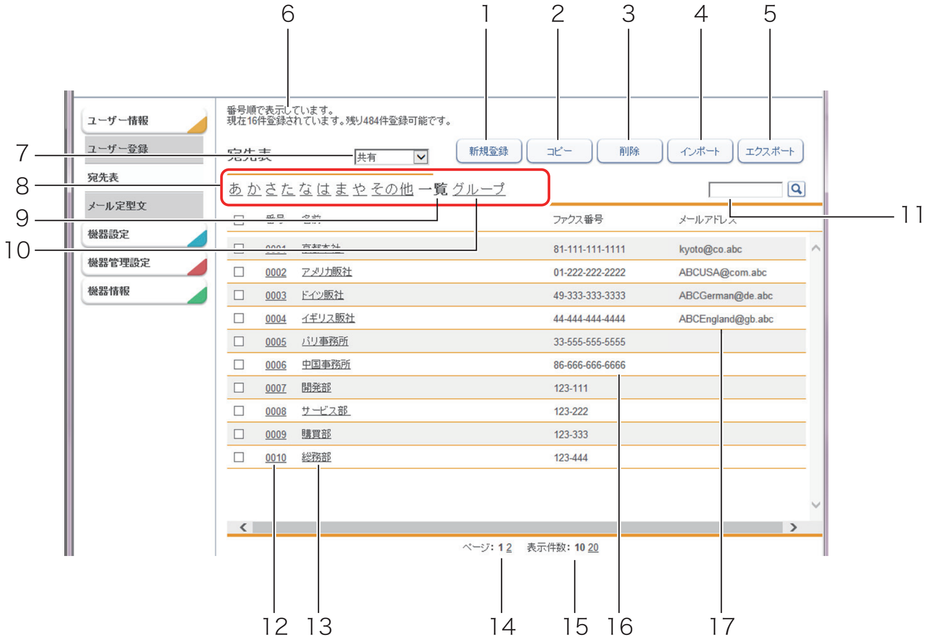
送信頻度の高い相手先の宛先情報（ファクス番号や電子メールアドレスなど）を宛先表に登録できます。
宛先情報を登録すると、送信時のファクスや電子メールアドレスの宛先設定を簡単に行えます。宛先表は個人用、共有用と分けて作成できます。また、複数の宛先をグループ化できます。

補 足

本商品のワンタッチキーで宛先を指定して送信する場合は、共有宛先表しか使用できません。

## 「宛先表」一覧画面について

「宛先表」一覧画面は、登録した相手先が一覧表示されている画面です。
この画面で宛先情報を新規登録したり、変更したりできます。




### ボタン

| 番号 | ボタン名 | 用途 |
|---|---|---|
| 1 | [新規登録] | 宛先情報を新規登録します。 |
| 2 | [コピー] | すでに登録済みの宛先情報をコピーします。編集することで別の宛先情報として使用できます。 |
| 3 | [削除] | 宛先情報を削除します。 |
| 4 | [インポート] | 宛先情報を外部ファイルから読み込みます。 |
| 5 | [エクスポート] | 宛先情報を指定のファイル形式で書き出します。 |

### 一覧表項目

| 番号 | 項目 | 内容 |
|---|---|---|
| 6 | 登録可能件数表示 | 登録可能な宛先件数が表示されます。 |
| 7 | 個人／共有切り替え | 宛先情報の表示を個人／共有で切り替えます。（ユーザーログインしたときに表示されます） |
| 8 | 表示絞込み | 表示されている宛先一覧を絞り込むことができます。 |
| 9 | 一覧表示 | 任意に付けられた短縮番号の順番に表示されます。 |
| 10 | グループ表示 | 登録されているグループ一覧が表示されます。任意に付けられたグループ番号の順番に表示されます。<br>また、グループの登録もできます。（→ 4-22 ページ） |
| 11 | 宛先検索 | 宛先情報の検索を行います。<br>以下の項目で検索を行います。<br>• 名前<br>• 名前読み仮名<br>• ファクス番号<br>• メールアドレス<br>検索結果は「宛先表」一覧画面に表示されます。<br>検索は個人、共有別個に行います。<br>グループを表示しているときはグループ検索もできます。グループの名前、名前読み仮名の項目で検索を行います。 |
| 12 | 番号 | 任意に付けられた短縮番号です。 |
| 13 | 名前 | 登録した宛先情報の宛先名が表示されます。<br>［▼］をクリックすると、表示順を「名前読み仮名」の昇順に並べ替えられます。 |
| 14 | ページ切り替え | 宛先情報が 1 画面に収まらない場合、ページを切り替えて表示します。（表示件数の設定によってページ数は変わります） |
| 15 | 表示件数切り替え | 1 画面で表示できる件数（10 件、20 件、50 件）を切り替えます。 |
| 16 | ファクス番号 | 登録した宛先情報のファクス番号が表示されます。 |
| 17 | メールアドレス | 登録した宛先情報の電子メールアドレスが表示されます。 |

# 宛先を新規登録する

宛先を新規登録します。

補 足

宛先は個人、共有合わせて最大 500 件まで登録できます。

**1** ［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。（→ 3-10 ページ）

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

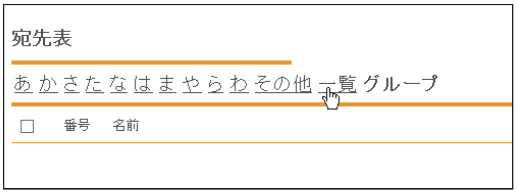
**2** ［ユーザー情報］をクリックし、［宛先表］をクリックします。

**3** ユーザーでログインしたときは、宛先情報を個人／共有のどちらで登録するかを選択します。




［管理画面］をクリックしてログインしたときは、個人／共有の選択はできません。宛先情報は共有宛先として登録されます。

**4** 一覧表示になっていないときは、「一覧」をクリックします。




**5** ［新規登録］をクリックします。

**6** 宛先情報を設定します。



| 項目 | 説明 | 設定値 |
| --- | --- | --- |
| 番号 | 短縮番号を入力します。必ず入力してください。 | 1 ～ 9999（重複不可） |
| 名前 | 相手先の名前を入力します。また、敬称も設定できます。<br>共有宛先登録時には、すべての宛先に対して重複入力できません。<br>個人宛先登録時には、そのユーザーの個人宛先および共有宛先に対して重複入力できません。 | 全角 15 文字（半角 30 文字）<br><br>なし<br>様<br>殿<br>御中 |
| 名前読み仮名 | 名前の読み仮名を入力します。宛先表の一覧画面で、名前での絞り込みの対象になります。<br>また、読み仮名を登録すると、本商品の索引で読み仮名別に仕分けされます。詳しくは、『取扱説明書』第 5 章の「宛先を指定する」を参照してください。 | 全角 10 文字（半角 20 文字） |
| ファクス番号＊1 | 相手先のファクス番号を入力します。 | 半角数字 40 桁<br>（0 ～ 9、＊、#、-、ダイヤル記号も使用可能） |
| メールアドレス＊1 | 相手先の電子メールアドレスを入力します。 | 半角 50 文字 |
| スーパー G3 | スーパー G3（超高速通信モード）送信の ON ／ OFF を切り替えます。 | ON<br>OFF |
| リルート設定＊2 | リルート機能の ON ／ OFF を切り替えます。 | ON<br>OFF |

＊1　ファクス番号、電子メールアドレスのいずれかが設定されている必要があります。
＊2　リルート機能とは、インターネットファクス送信時に通信エラーが発生した場合、ファクスで自動的に再送信する機能です。

## 7　［保存］をクリックします。

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 5 から操作を繰り返します。

**補 足**

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

## ❑ 宛先情報を変更する

補足

変更対象となる宛先情報が、以下の機能で設定されているときはエラーになります。また、宛先情報が送信中のジョブに使用されていたり、通信予約中のジョブに使用されていたりするときもエラーになります。

- 自動配信
- ジョブメモリー

**1** 「宛先表」一覧画面を開きます。

「宛先を新規登録する」（4-14 ページ）を参照してください。

**2** 「宛先表」一覧画面で、変更する宛先情報の番号または名前（会社名）をクリックします。




**3** 宛先情報を変更します。

**4** ［保存］をクリックします。

これで手順は終了です。

# 既存の宛先情報を利用して新規登録する（コピー）

すでに登録済みの宛先情報を利用して新規宛先を登録します。

補 足

一度に複数の宛先情報はコピーできません。

**1** **［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。****（→ 3-10 ページ）**

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［ユーザー情報］をクリックし、［宛先表］をクリックします。**

**3** **コピー元となる宛先情報のチェックボックスにチェックを入れます。**




**4** **［コピー］をクリックします。**

「登録」画面が表示され、宛先情報にはコピー元の設定が入力されています。

**5** **新規登録する宛先情報に合わせて設定を変更します。**

**6** **［保存］をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 3 から操作を繰り返します。

4

各機能の設定

# 宛先情報を削除する

不要になった宛先情報を「宛先表」一覧画面から削除します。

補足

削除対象となる宛先情報が、以下の機能で設定されているときはエラーになります。また、宛先情報が送信中のジョブに使用されていたり、通信予約中のジョブに使用されていたりするときもエラーになります。

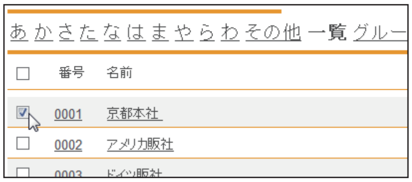
- 自動配信
- ジョブメモリー

**1** **［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。**(→ 3-10 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［ユーザー情報］をクリックし、［宛先表］をクリックします。**

**3** **削除対象となる宛先情報のチェックボックスにチェックを入れます。**




・一番上のチェックボックスにチェックを入れると、すべての宛先情報にチェックが入ります。
・チェックを解除するには、再度チェックボックスをクリックします。

**4** **［削除］をクリックします。**

**5** **［OK］をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 3 から操作を繰り返します。

# 宛先情報を外部ファイルからインポートして登録する

外部ファイルからデータを読み込み、宛先情報として登録します。

**補足**

インポート可能なファイルフォーマットは、CSV および vCard です。

**1** **［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。****（→ 3-10 ページ）**

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［ユーザー情報］をクリックし、［宛先表］をクリックします。**

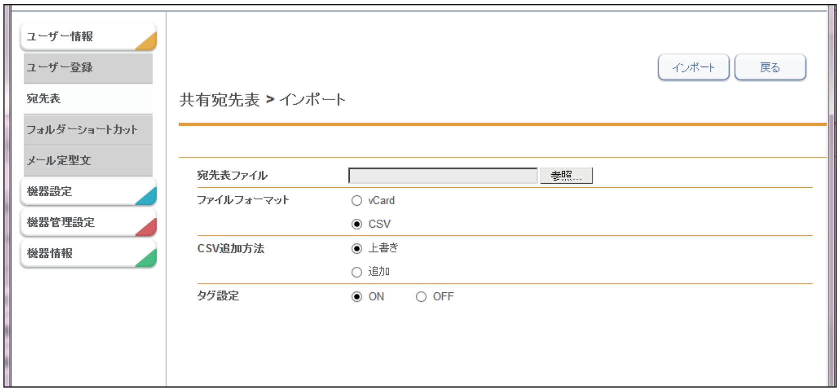
**3** **ユーザーログインしたときは、宛先情報を個人／共有のどちらにインポートするかを選択します。**




［管理画面］をクリックしてログインしたときは、個人／共有の選択はできません。宛先情報は共有宛先として登録されます。

**4** **［インポート］をクリックします。**

**5** **詳細情報を設定します。**




| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| 宛先表ファイル | ［参照］をクリックしてインポートするファイルを指定します。 | — |
| ファイルフォーマット | インポートするファイルのフォーマットを選択します。「vCard」、「CSV」のいずれかを選択します。 | vCard<br>CSV |

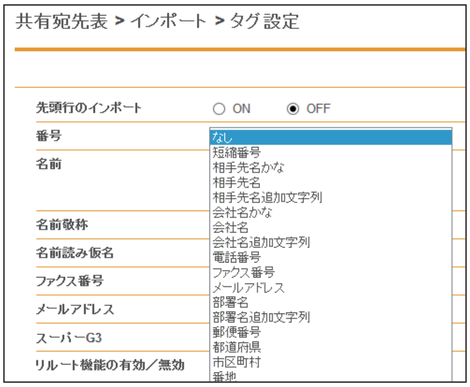
| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| CSV 追加方法＊1 | データを宛先表に読み込むときの方法について選択します。<br><br>上書き： 選択されている個人宛先表または共有宛先表の全データをいったん削除し、インポートするデータを読み込みます。項目「番号」のデータもインポートされます。<br>追加： 宛先表にデータを追加します。ただし、項目「番号」のデータはインポートされず自動的に割り振られます。 | 上書き<br>追加 |
| タグ設定＊1＊2 | 読み込み時にタグ設定を行うかどうかを設定します。タグ設定を行うときは「ON」、行わないときは「OFF」を選択します。 | ON<br>OFF |

＊1　ファイルフォーマットで「CSV」を選択すると、表示される項目です。
＊2　宛先表の項目とファイル内の項目との関連付けを手動で行います。行わない場合、本商品やほかの機種、Outlook、Outlook Express のエクスポート機能で生成する CSV ファイルの項目名に対応して、自動的に関連付けを行います。

## 6 ［インポート］をクリックします。

ファイルフォーマット「CSV」を選択した場合で、タグ設定を OFF にしたときは、これで手順は終了です。タグ設定を ON にしたときは、次の手順に進みます。

## 7 各項目にタグを設定します。




「先頭行のインポート」を ON にしたときは、CSV ファイルの先頭行もデータとしてインポートします。

## 8 ［インポート］をクリックします。

これで手順は終了です。

**補足**

- __の付いている値が、工場出荷時の設定です。
- インポートが失敗した場合、エラー情報を含んだ csv ファイル（エラー情報付きインポートファイル）をダウンロードできる画面が表示されます。ファイルをダウンロードして開き、インポートの失敗原因を修正してください。その後、再度インポートしてください。

# 登録された宛先情報を外部ファイルとしてエクスポートする

選択した宛先情報を外部ファイルとして書き出します。
複数の宛先情報を選択できます。

**補 足**

エクスポート可能なファイルフォーマットは、CSV および vCard です。

**1** **［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。****(→ 3-10 ページ)**

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［ユーザー情報］をクリックし、［宛先表］をクリックします。**

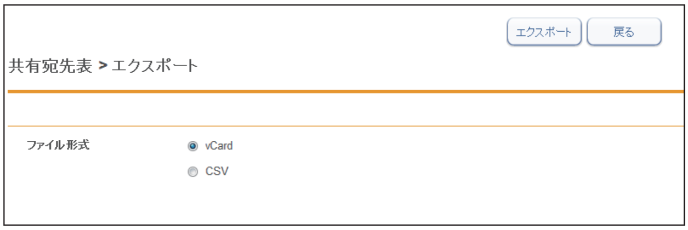
**3** **エクスポートする宛先情報のチェックボックスにチェックを入れます。**




・一番上のチェックボックスにチェックを入れると、すべての宛先情報にチェックが入ります。
・チェックを解除するには、再度チェックボックスをクリックします。
・宛先を選択せずに［エクスポート］を押すと、すべての宛先をエクスポートします。

**4** **［エクスポート］をクリックします。**

**5** **エクスポートの形式を選択します。**




**6** **［エクスポート］をクリックします。**

**7** **［保存］をクリックします。**

**8** **保存する場所と名前を指定し、［保存］をクリックします。**

これで手順は終了です。

# 複数の宛先情報をグループ化する

複数の宛先情報を目的に応じてグループ化し、管理できます。
送信時の設定をグループ単位でできるので、宛先を個々に設定する必要がなくなります。

## ❏ グループを新規登録する

宛先表にグループを作成し、宛先情報をそのグループ情報として登録します。

補 足

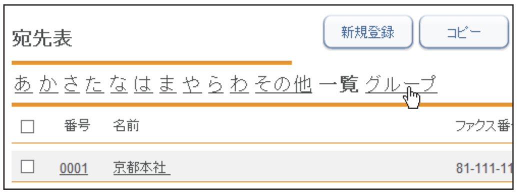
グループは個人、共有あわせて最大 100 件まで登録できます。

**1** ［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。(→ 3-10 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** ［ユーザー情報］をクリックし、［宛先表］をクリックします。

**3** 「グループ」をクリックします。




**4** ユーザーログインしたときは、個人／共有のどちらでグループ登録するかを選択します。




・個人グループ登録時には、個人／共有両方の宛先をグループ化できます。
・共有グループ登録時には、共有の宛先のみグループ化できます。
・［管理画面］をクリックしてログインしたときは、個人／共有の選択はできません。グループ登録は共有グループとして登録されます。

**5** ［新規登録］をクリックします。

**6** グループ名を設定します。




| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| 番号 | グループの番号を入力します。必ず入力してください。 | 1 ～ 100（重複不可） |

| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| 名前 | グループの名前を入力します。必ず入力してください。<br>共有グループ登録時には、すべてのグループに対して重複入力できません。個人グループ登録時には、そのユーザーの個人グループおよび共有グループに対して重複入力できません。 | 全角 25 文字（半角 50 文字） |
| 名前読み仮名 | 名前の読み仮名を入力します。 | 全角 25 文字（半角 50 文字） |

## 7 登録する宛先を選択し、下記のボタンをクリックして宛先リストに追加します。




| 種類 | 意味 |
|---|---|
| [ファクス] | ファクスの送信宛先として登録します。 |
| [To] | メールの送信宛先として登録します。 |
| [Cc] | メールの同報送信宛先として登録します。この宛先は、本来の送信相手（To）にも通知されます。 |
| [Bcc] | メールの同報送信宛先として登録します。この宛先は、本来の送信相手（To）には通知されません。 |

・左の宛先表一覧で、登録する宛先のチェックボックスにチェックを入れます。
・一番上のチェックボックスにチェックを入れると、すべての宛先情報にチェックが入ります。
・チェックを解除するには、再度チェックボックスをクリックします。

## 8 ［保存］をクリックします。

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 5 から操作を繰り返します。

### ❑ グループを変更する

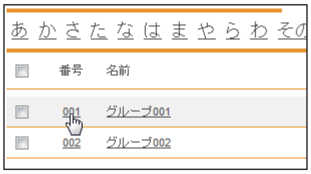
**補足**

削除対象となる宛先情報が、自動配信で設定されているときはエラーになります。また、宛先情報が送信中のジョブに使用されていたり、通信予約中のジョブに使用されていたりするときもエラーになります。

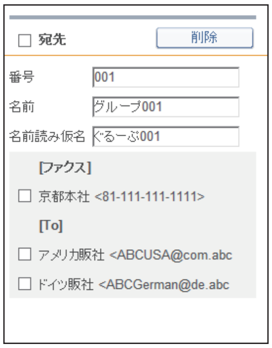
**1** **「グループ」一覧画面を開きます。**

「グループを新規登録する」（4-22 ページ）を参照してください。

**2** **変更する番号またはグループ名をクリックします。**




**3** **宛先を削除するには、画面右側のグループ編集エリアで削除対象となる宛先のチェックボックスにチェックを入れます。**




- 一番上のチェックボックスにチェックを入れると、すべての宛先にチェックが入ります。
- チェックを解除するには、再度チェックボックスをクリックします。

**4** **［削除］をクリックします。**

**5** **［OK］をクリックします。**

チェックを入れた宛先が削除されます。

**6** **宛先を追加するには、左の宛先表一覧から追加する宛先を選択し、送信宛先登録ボタンをクリックします。**

「グループを新規登録する」（4-22 ページ）の手順 7 を参照してください。

**7** **［保存］をクリックします。**

- これで手順は終了です。
- 続けて操作するときは、手順 2 から操作を繰り返します。

## ❑ 既存のグループを利用して新規登録する（コピー）

すでに登録済みのグループ情報を利用して新規グループを登録します。

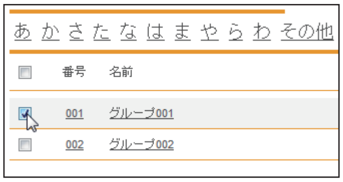
**補 足**

一度に複数のグループ情報はコピーできません。

**1** **「グループ」一覧画面を開きます。**

「グループを新規登録する」（4-22 ページ）を参照してください。

**2** **コピー元となるグループ情報のチェックボックスにチェックを入れます。**




**3** **［コピー］をクリックします。**

「宛先表グループ編集」画面が表示され、グループ情報にはコピー元の設定が入力されています。

**4** **新規登録するグループの情報に合わせて設定を変更します。**

**5** **［保存］をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 2 から操作を繰り返します。

## ❑ グループを削除する

不要になったグループ情報を「宛先表」グループ一覧画面から削除します。

**補足**

削除対象となる宛先情報が、自動配信で設定されているときはエラーになります。また、宛先情報が送信中のジョブに使用されていたり、通信予約中のジョブに使用されていたりするときもエラーになります。

**1** **「グループ」一覧画面を開きます。**

「グループを新規登録する」（4-22 ページ）を参照してください。

**2** **削除するグループ情報のチェックボックスにチェックを入れます。**




・一番上のチェックボックスにチェックを入れると、すべてのグループ情報にチェックが入ります。
・チェックを解除するには、再度チェックボックスをクリックします。

**3** **［削除］をクリックします。**

「選択された宛先を削除します。」と表示されます。

**4** **［OK］をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 2 から操作を繰り返します。

# フォルダーショートカットを登録する

文書送付先のフォルダーを、ショートカットとして登録できます。ショートカットを登録しておくと、自動配信やアーカイブ時にショートカットを使用できます。

## フォルダーショートカットを設定する

### ❏ フォルダーショートカットを新規登録する

補足

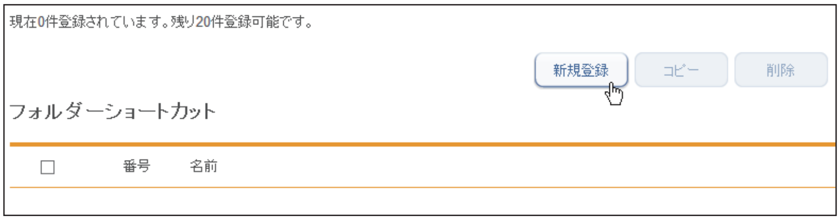
フォルダーショートカットは、最大 20 件まで登録できます。

**1** ［管理画面］をクリックし、ログインします。(→ 3-10 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** ［ユーザー情報］をクリックし、［フォルダーショートカット］をクリックします。

**3** ［新規登録］をクリックします。




**4** 詳細情報を設定します。




| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| ショートカット番号 | 一番小さい空き番号が自動入力されます。任意の番号に変更できます。必ず入力してください。 | 001 ～ 020 |
| ショートカット名 | 本商品の画面に表示されるボタン名称です。登録しなかったときは、リンク先の先頭から 24 文字が表示されます。 | 全角 12 文字（半角 24 文字） |

| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| フォルダーパス | 登録するフォルダーがあるパス（場所）を入力します。必ず入力してください。<br>入力は、「//（ワークグループのコンピューター名）/（フォルダー名）/...」の形で行います。<br>［参照］をクリックすると、「参照」画面でフォルダーパスを簡単に入力できます。 | 全角 64 文字（半角 128 文字）<br>: * ? " < > \| は使用できません |
| ユーザー名 | フォルダーへのアクセスに、ユーザー名が必要なときに登録します。 | 全角 32 文字（半角 64 文字） |
| パスワード | フォルダーへのアクセスに、パスワード名が必要なときに登録します。<br>入力するときは、「変更する」にチェックを入れます。 | 半角 28 文字 |

**5 ［保存］をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 3 から操作を繰り返します。

**補 足**

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

## ❑ フォルダーパスを参照して入力する

**1 「フォルダーショートカット」一覧画面を開きます。**

「フォルダーショートカットを新規登録する」（4-27 ページ）を参照してください。

**2 ［新規登録］をクリックします。**

**3 「フォルダーパス」の［参照］をクリックします。**

・接続されているネットワーク全体の一覧が表示されます。
・あらかじめフォルダーパスにコンピューター名を入力しておくと、そのコンピューターの共有フォルダー一覧を表示します。

**4 表示されるコンピューター名またはフォルダー名をクリックして、フォルダーショットカットに登録したいフォルダーを選択します。**




・フォルダーのアクセスにユーザー名とパスワードが必要なときは認証画面が表示されます。アクセス権のあるユーザー名とパスワードを入力し、［保存］をクリックします。
・［戻る］をクリックすると、1 つ前の階層に戻ります。
・［ルート］をクリックすると、一番先頭の階層（ルート）に戻ります。

**5 ［保存］をクリックします。**

「フォルダーショートカットを新規登録する」（4-27 ページ）の手順 4 に戻ります。

## ❑ フォルダーショートカットの設定を変更する

一度登録したフォルダーショートカットの設定を変更できます。

**1** **「フォルダーショートカット」一覧画面を開きます。**

「フォルダーショートカットを新規登録する」（4-27 ページ）を参照してください。

**2** **変更するフォルダーショートカットの番号または名前をクリックします。**




**3** **フォルダーショートカットの設定を変更します。**

「フォルダーショートカットを新規登録する」（4-27 ページ）の手順 4 を参照してください。

**4** **［保存］をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 2 から操作を繰り返します。

## ❑ 既存のフォルダーショートカットを利用して新規作成する（コピー）

すでに登録済みのフォルダーショートカットを利用して新規のフォルダーショートカットを登録します。

**1** **「フォルダーショートカット」一覧画面を開きます。**

「フォルダーショートカットを新規登録する」（4-27 ページ）を参照してください。

**2** **コピー元のチェックボックスにチェックを入れます。**




**3** **［コピー］をクリックします。**

「登録」画面が表示され、詳細情報にはコピー元の設定が入力されます。

**4** **新規登録するフォルダーショートカットに合わせて設定を変更します。**

「フォルダーショートカットを新規登録する」（4-27 ページ）の手順 4 を参照してください。

**5** **［保存］をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 2 から操作を繰り返します。

## ❑ フォルダーショートカットを削除する

不要なフォルダーショートカットを一覧から削除します。

**1** **「フォルダーショートカット」一覧画面を開きます。**

「フォルダーショートカットを新規登録する」(4-27 ページ)を参照してください。

**2** **削除するフォルダーショートカットのチェックボックスにチェックを入れます。**




**3** **[削除]をクリックします。**

「設定を削除します。よろしいですか?」と表示されます。

**4** **[OK]をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 2 から操作を繰り返します。

**補 足**

ほかの機能で、フォルダーショートカットが使用されているときは削除できません。

# メール定型文を設定する

インターネットファクス送信をするときに、あらかじめ登録しておいた文書をメールの本文として使用できます。メール定型文は 10 件登録できます。

## ❑ メール定型文を新規登録する

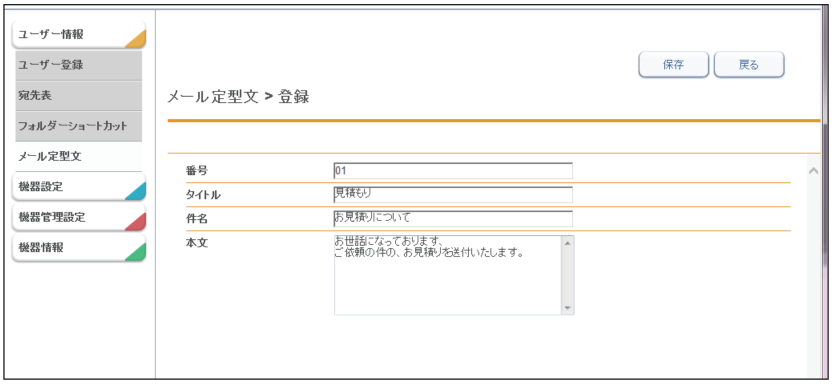
**1** ［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。（→ 3-10 ページ）

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** ［ユーザー情報］をクリックし、「メール定型文」をクリックします。

**3** ［新規登録］をクリックします。

**4** 以下の項目を設定します。




| 項目 | 説明 | 設定値 |
| --- | --- | --- |
| 番号 | 一番小さい空き番号が自動入力されます。任意の番号に変更できます。必ず入力してください。 | 01 ～ 10 |
| タイトル | メール定型文のタイトルを入力します。本商品の操作パネル上のボタン名として表示されます。 | 全角 20 文字（半角 40 文字） |
| 件名 | 送信するメールに件名として入力されます。 | 全角 40 文字（半角 80 文字） |
| 本文 | 送信するメールの本文として入力されます。 | 全角 512 文字（半角 1,024 文字） |

**5** ［保存］をクリックします。

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 3 から操作を繰り返します。

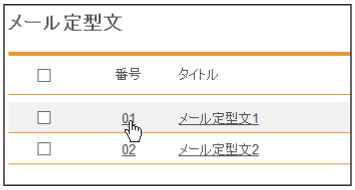
## ❑ メール定型文を変更する

一度登録したメール定型文をあとから変更できます。

**1** 「メール定型文」の一覧画面を開きます。

「メール定型文を新規登録する」（4-31 ページ）を参照してください。

**2** 変更する番号またはタイトルをクリックします。




**3** 番号、タイトル、件名または本文を変更します。

**4** ［保存］をクリックします。

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 2 から操作を繰り返します。

## ❑ 既存のメール定型文を利用して新規登録する（コピー）

すでに登録済みのメール定型文を利用して新規テンプレートを登録します。

補 足

一度に複数のメール定型文はコピーできません。

**1** 「メール定型文」の一覧画面を開きます。

「メール定型文を新規登録する」（4-31 ページ）を参照してください。

**2** コピー元となるメール定型文のチェックボックスにチェックを入れます。




**3** ［コピー］をクリックします。

・番号には一番小さい空き番号が自動入力されます。
・「登録」画面が表示されます。

**4** 新規登録するメール定型文に合わせて設定を変更します。

「メール定型文を新規登録する」（4-31 ページ）の手順 4 を参照してください。

**5** ［保存］をクリックします。

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 2 から操作を繰り返します。

## ❑ メール定型文を削除する

不要なメール定型文を削除します。

**1** **「メール定型文」の一覧画面を開きます。**

「メール定型文を新規登録する」（4-31 ページ）を参照してください。

**2** **削除するメール定型文のチェックボックスにチェックを入れます。**




・一番上のチェックボックスにチェックを入れると、すべてのメール定型文にチェックが入ります。
・チェックを解除するには、再度チェックボックスをクリックします。

**3** **［削除］をクリックします。**

「設定を削除します。よろしいですか？」と表示されます。

**4** **［OK］をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・続けて操作するときは、手順 2 から操作を繰り返します。

# 接続環境を設定する

ネットワーク環境や、電子メールの送受信環境などを設定します。

## ネットワーク環境を設定する

本商品とコンピューターを接続するためのネットワーク環境を設定します。
設定項目は、共通設定、ポート番号設定の 2 つのグループに分かれています。

補 足

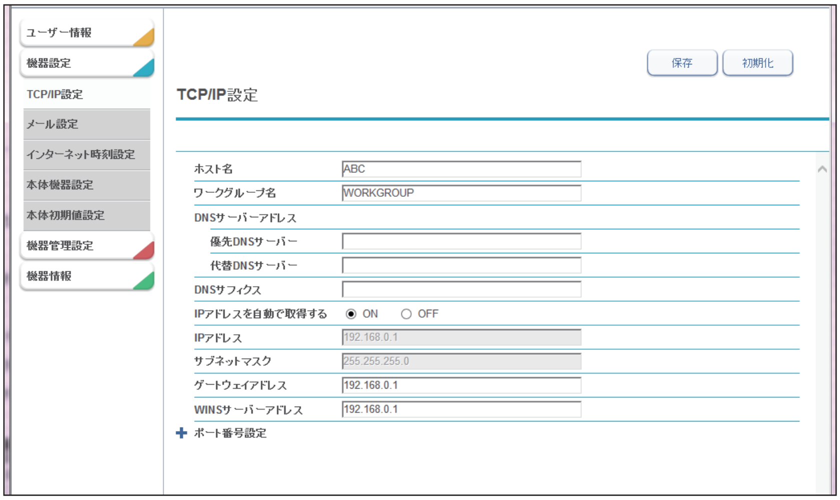
本商品の操作パネルの機器設定でも、ネットワーク環境の設定ができます。詳細は『取扱説明書』第 8 章の「ネットワーク設定をする」を参照してください。

**1** ［管理画面］をクリックし、ログインします。(→ 3-10 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** ［機器設定］をクリックし、［TCP/IP 設定］をクリックします。

**3** 詳細情報を設定します。




| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| ホスト名 | 本商品のホスト名を入力します。必ず入力してください。<br>初期設定は MAC アドレスになっています。<br>複数の機器が同一のネットワークに接続されているときは、ホスト名が異なる名前になるように設定してください。 | 半角英数記号 15 文字（先頭に * は使用できません） |
| ワークグループ名 | 本商品が接続されているネットワークのワークグループ名を入力します。必ず入力してください。 | 半角英数記号 15 文字（先頭に * は使用できません）：<br>WORKGROUP |

| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| DNS サーバーアドレス | DNS サーバーを使用しているときは、優先 DNS サーバーアドレス、代替 DNS サーバーアドレスを入力します。 | XXX.XXX.XXX.XXX 形式（XXX は数字で 0 ～ 255）0.0.0.0、255.255.255.255、127 で始まるアドレスは設定できません。 |
| DNS サフィクス | ホスト名だけで名前解決をするときは、DNS サフィクスを登録します。 | 半角英数記号 50 文字 |
| IP アドレスを自動で取得する | DHCP 設定の有効／無効を設定します。<br>DHCP 設定を有効にするときは「ON」、無効にするときは「OFF」を選択します。 | ON<br>OFF |
| IP アドレス | IP アドレスを入力します。必ず入力してください。<br>ただし、DHCP 設定が「ON」のときは、取得している IP アドレスが表示され、編集できません。 | XXX.XXX.XXX.XXX 形式（XXX は数字で 0 ～ 255）0.0.0.0、255.255.255.255、127 で始まるアドレスは設定できません。 |
| サブネットマスク | サブネットマスクを入力します。必ず入力してください。<br>ただし、DHCP 設定が「ON」のときは、取得しているサブネットマスクが表示され、編集できません。 | |
| ゲートウェイアドレス | ゲートウェイを使用しているときは、ゲートウェイアドレスを入力します。 | |
| WINS サーバーアドレス | WINS サーバーを使用しているときは、WINS サーバーアドレスを入力します。 | |

**ポート番号設定**

［+］をクリックすると、設定項目が表示されます。

| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| HTTP ポート番号 | HTTP サーバーのポート番号を入力します。 | 0 ～ 65535: 80 |
| 検索用ポート番号 | ドライバーのインストール時、本商品を自動検索するときに使用される UDP のポート番号を入力します。 | 0 ～ 65535: 61000 |
| RAW ポート（Port9100）番号 | オプションのプリンターコントローラーキットで使用する、RAW ポートのポート番号を入力します。 | 0 ～ 65535: 9100 |

## 4 ［保存］をクリックします。

これで手順は終了です。

**補足**

- __の付いている値が、工場出荷時の設定です。
- ［初期化］をクリックすると、工場出荷時の設定値に戻ります。
- DHCP 設定を「ON」に設定したときに取得した IP アドレスは、DHCP 設定を「OFF」に設定すると固定アドレスとして登録されます。ただし、主電源を切ったままにしておくと、設定が変更されることがあります。そのときは、管理者にお問い合わせの上、固定アドレスを再度設定してください。

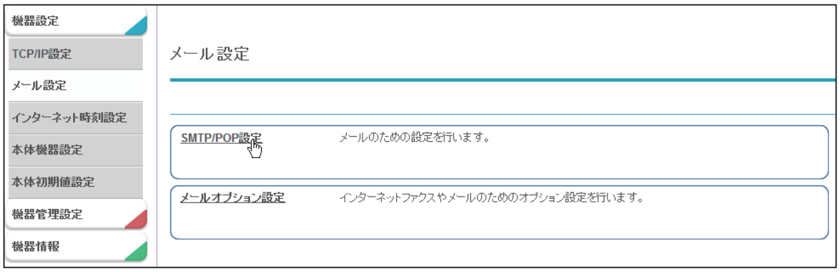
# 電子メール送受信環境を設定する

電子メールを送受信するための環境を設定します。
設定項目は、装置情報、SMTP サーバー設定、POP サーバー設定、SMTP 受信設定の 4 つのグループに分かれています。

**1** ［管理画面］をクリックし、ログインします。(→ 3-10 ページ)
管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** ［機器設定］をクリックし、［メール設定］をクリックします。

**3** 「メール設定」一覧画面で「SMTP / POP 設定」をクリックします。




**4** 詳細情報を設定します。




### 機器情報

| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| 名前 | 電子メールを送信するとき、送信者欄（From）に表示される名前を入力します。<br>ユーザーログイン時に電子メールを送信したときは、ユーザー情報に登録されているユーザー名が表示されます。 | 全角 20 文字（半角 40 文字） |
| 機器メールアドレス | 本商品に割り当てる電子メールアドレスを入力します。<br>ユーザーログイン時に電子メールを送信したときは、ユーザー情報に登録されているメールアドレスが表示されます。 | 半角英数記号 50 文字<br>(0 ～ 9、A ～ z、@.-_) |
| 返信先メールアドレス | 送信したメールを相手が返信するときのメールアドレスを入力します。 | 半角英数記号 50 文字<br>(0 ～ 9、A ～ z、@.-_) |

### SMTP サーバー設定

| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| SMTP サーバーアドレス | 電子メールの送信に使用する SMTP サーバーの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。 | IP アドレスのときは、XXX.XXX.XXX.XXX 形式（XXX は数字で 0 ～ 255）0.0.0.0、255.255.255.255、127 で始まるアドレスは設定できません。<br>ドメイン名のときは、半角英数記号 50 文字（0-9、a-z、A-Z、-、.、_） |
| SMTP ポート番号 | SMTP ポート番号を入力します。 | 0 ～ 65535：25 |
| SSL の使用 | 通信時の暗号化方法を選択します。使用しないときは「OFF」を選択します。 | OFF<br>SSL<br>STARTTLS |
| SMTPS ポート番号 | SMTPS ポート番号を入力します。 | 0 ～ 65535：465 |
| 認証方式 | 使用する SMTP サーバーが認証を必要とする場合、SMTP 認証方式を設定します。 | 使用しない<br>LOGIN<br>PLAIN<br>CRAM-MD5 |
| SMTP 認証ユーザー名 | SMTP サーバーが認証を必要とするときに使用するアカウントを設定します。 | 半角英数記号 50 文字 |
| SMTP 認証パスワード | SMTP サーバーが認証を必要とするときに使用するパスワードを設定します。入力するときは「変更する」にチェックを入れます。 | 半角英数記号 50 文字 |
| 送信の前に受信を行う | 電子メールを送信する前に、POP サーバーに認証させる場合、「ON」に設定します。<br>ご利用のプロバイダーによっては、送信（SMTP サーバーへの送信要求）前に POP 認証を必要とする場合があります。そのような場合、この項目を設定します。 | ON<br>OFF |

### POP サーバー設定

| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| POP3 サーバーアドレス | 電子メールの受信に使用する POP サーバーの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。 | IP アドレスのときは、XXX.XXX.XXX.XXX 形式（XXX は数字で 0 ～ 255）0.0.0.0、255.255.255.255、127 で始まるアドレスは設定できません。<br>ドメイン名のときは、半角英数記号 50 文字（0-9、a-z、A-Z、-、.） |
| POP3 ポート番号 | POP3 ポート番号を入力します。 | 0 ～ 65535：110 |
| SSL の使用 | 通信時に SSL を使用するときは「ON」、使用しないにするときは「OFF」を選択します。 | ON<br>OFF |

| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| POP3S ポート番号 | POP3S ポート番号を入力します。 | 0 〜 65535：995 |
| 認証方式 | 使用する POP サーバーが認証を必要とする場合、POP 認証方式を設定します。<br>「標準」または「APOP」のいずれかを選択します。 | 標準<br>APOP |
| ＰＯＰ３ ユーザー名 | POP3 サーバーにログオンするときに使用するアカウントを入力します。 | 半角英数記号 50 文字 |
| POP3 ユーザーパスワード | POP3 サーバーにログオンするときに使用するパスワードを入力します。入力するときは「変更する」にチェックを入れます。 | 半角英数記号 50 文字 |
| 新着メール自動確認 | メールサーバーへの新着メール確認をするかしないかを設定します。<br>新着メールを確認するときは、確認時間の間隔を設定します。最短で 0（時間）1（分）、最長で 99（時間）59（分）の間で設定できます。＊1 | ON<br>OFF<br>時：0 〜 99<br>分：0 〜 59 |

＊1　新着メールの確認を「ON」に設定したときは、すべての値を「0」にはできません。

### SMTP 受信設定

［＋］をクリックすると、設定項目が表示されます。
この設定は、ダイレクト SMTP の受信側の設定です。

| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| 受信用ドメインを自ドメインと同じかチェックする | 送信のフォワードパスと自ドメインの同異をチェックするときは「ON」、使用しないにするときは「OFF」を選択します。 | ON<br>OFF |
| 受信用ドメイン | 「受信用ドメインを自ドメインと同じかチェックする」を「ON」にした場合にドメイン名を入力します。 | 半角英数記号 50 文字（0 〜 9、A 〜 z、@.-_） |
| ポート番号 | SMTP 受信用ポート番号を入力します。 | 0 〜 65535：25 |
| 受信を許可する端末 | 受信を許可する端末の IP アドレスまたはドメイン名を入力します。最大 5 件まで一覧に追加できます。<br>〈追加するには〉<br>IP アドレスまたはドメイン名を入力ボックスに入力し、［追加］をクリックします。<br>〈削除するには〉<br>削除する IP アドレスまたはドメイン名をチェックし、［削除］をクリックします。 | IP アドレスのときは、XXX.XXX.XXX.XXX 形式（XXX は数字で 0 〜 255）0.0.0.0、255.255.255.255、127 で始まるアドレスは設定できません。<br>ドメイン名のときは、半角英数記号 50 文字（0-9、a-z、A-Z、-、.） |

## 5　［保存］をクリックします。

これで手順は終了です。

補 足

- __の付いている値が、工場出荷時の設定です。
- ［初期化］をクリックすると、工場出荷時の設定値に戻ります。
- SMTP サーバーと POP3 サーバーが同じ場合でも必ず両方を設定してください。
- SMTP 受信設定の「ポート番号」を変更したときは、本商品を必ず再起動してください。

# 電子メール運用環境を設定する

電子メールをより便利に使うためのメール運用環境を設定します。

**1** **［管理画面］をクリックし、ログインします。****(→ 3-10 ページ)**

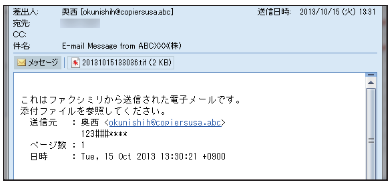
管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［機器設定］をクリックし、［メール設定］をクリックします**

**3** **「メール設定」一覧画面で「メールオプション設定」をクリックします。**

**4** **詳細情報を設定します。**




| 項目 | | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|---|
| 添付ファイル形式 | | 送信原稿のファイル形式が TIFF の場合の画像符号化方式を設定します。 | ― |
| | 符号化方式 | 送信原稿の画像符号化方式を設定します。 | MH<br>MR<br><u>MMR</u><br>JBIG |
| 本文自動挿入 | | 電子メールの送信時に件名または本文が無い場合、あらかじめ設定した件名または本文を自動的に付けるかどうかを設定します。<br>例：「自動的に件名 / 本文をつける」と「送信者情報」を「つける」にしたとき<br> | |
| | 言語 | 件名および本文を付ける場合、使用する言語を設定します。 | <u>日本語</u><br>English |

| 項目 | | 説明 | 設定値 |
| --- | --- | --- | --- |
| | 自動的に件名／本文をつける | 電子メールの件名または本文が無い場合、あらかじめ設定した件名または本文をつけて送信します。<br>自動的につける件名・本文は「本体初期値設定」、「メール機能」の「定型文」で選択します。(→ 4-45 ページ)<br>また、定型文は「メール定型文を設定する」(4-31 ページ)にて登録できます。 | ON<br>OFF |
| | 送信者情報 | 「自動的に件名／本文をつける」を ON にしたときに表示されます。<br>件名および本文を付ける場合、本文に送信者情報を付けるかどうかを設定します。 | つける<br>つけない |
| メールヘッダーの宛先情報（To、Cc、Bcc）＊1 | | 電子メールの宛先情報（To、Cc、Bcc）を電子メールのヘッダー（先頭部分）に記述するかどうかを設定します。 | 記述する<br>記述しない |
| 解析不能メール受信処理 | | 受信した電子メールの、添付ファイルの形式によっては受信しても正しく印刷できない場合があります。（例：Microsoft Word など、アプリケーションソフトウェアで作成した文書）<br>結果に関して、電子メールを差出人にエラー返信するか、電子メールを返送するか、ほかの電子メールアドレスに転送するかを設定します。 | 差出人にエラー通知を送信する<br>差出人にメールを返送する<br>他へメールを転送する |
| | 転送先アドレス | 「他へメールを転送する」を選択した場合、転送先の電子メールアドレスを 1 件のみ設定できます。<br>転送先の電子メールアドレスを入力します。 | 半角英数記号 50 文字<br>（0 〜 9、A 〜 z、@.-_） |
| 送達確認要求＊2 | | 電子メールを送信する場合、受信側に配送確認（DSN）や開封確認（MDN）を要求するかどうかを設定します。<br>要求するときは「ON」、要求しないときは「OFF」を選択します。<br>確認項目は以下のとおりです。<br>• メールサーバーからの配送確認（DSN）<br>• 受取人が読んだことを知らせる既読確認（MDN） | サーバー配送確認（DSN）<br>ON<br>OFF<br>受信者開封確認（MDN）<br>ON<br>OFF |
| 開封確認（MDN）要求処理＊3 | | 電子メールを受信したときに、送信側より受信したメールの開封確認（MDN）が要求されている場合、開封確認を返信するかどうかを設定します。 | 開封確認（MDN）を返信しない<br>開封確認（MDN）を返信する |
| | 返信を許可するメールアドレス / ドメイン名 | 「開封確認（MDN）を返信する」を選択した場合、特定の電子メールアドレスまたはドメイン名から受信した電子メールのみ開封確認を返信するように設定できます。<br>返信を許可する電子メールアドレスまたはドメイン名は最大 5 件まで追加できます。<br>リストに何も登録されていないときは、すべての端末を許可する設定となります。<br>追加するには、電子メールアドレスまたはドメイン名を入力ボックスに入力し、[追加] をクリックします。<br>削除するには、削除する電子メールアドレスまたはドメイン名をチェックし、[削除] をクリックします。 | 半角英数記号 50 文字<br>（0 〜 9、A 〜 z、@.-_） |
| ファクス転送要求処理＊4 | | 受信した電子メールにファクスへの転送要求があった場合、その要求に応えるかどうかを設定します。 | 転送要求を拒否する<br>転送要求に応える |

| 項目 | | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|---|
| | ファクス転送要求元への転送結果通知 | 「転送要求に応える」を選択した場合、転送要求元へファクス転送結果を通知するかどうかを設定します。 | 送信する<br>送信しない |
| | ファクス転送要求を許可するメールアドレス / ドメイン名 | 「転送要求に応える」を選択した場合、特定の電子メールアドレスまたはドメイン名から受信した転送要求に限定してファクス転送を行うように設定できます。ファクスへの転送を許可する電子メールアドレスまたはドメイン名は最大5件まで追加できます。<br>リストに何も登録されていないときは、すべての端末を許可する設定となります。<br>追加するには、電子メールアドレスまたはドメイン名を入力ボックスに入力し、[追加] をクリックします。<br>削除するには、削除する電子メールアドレスまたはドメイン名をチェックし、[削除] をクリックします。 | 半角英数記号<br>50文字<br>(0～9、A～z、@.-_) |

＊1 電子メールを複数の宛先に大量に同報送信する場合、サーバーが電子メール送信を受け付けなくなる場合があります。そのようなときは「記述しない」を選択します。この場合、電子メールに宛先情報は記述されません。

＊2 メールサーバーや受信側のメールソフトウェアによっては、配送確認や開封確認を要求しても返信されないことがあります。

＊3 「開封確認（MDN）を返信する」をチェックし、返信を許可する電子メールアドレスまたはドメイン名を追加しなかったときは、開封確認が要求されているすべての電子メールに対して開封確認を返信します。

＊4 「転送要求に応える」をチェックし、ファクスへの転送を許可する電子メールアドレスまたはドメイン名を追加しなかったときは、ファクス転送が要求されているすべての電子メールに対して転送を行います。

**5** **[保存] をクリックします。**

これで手順は終了です。

**補足**

- __の付いている値が、工場出荷時の設定です。
- [初期化] をクリックすると、工場出荷時の設定値に戻ります。

# インターネット時刻を設定する

自動的にインターネット時刻サーバーと同期して、時刻合わせを行う場合に設定します。

**1**　**［管理画面］をクリックし、ログインします。**（→ 3-12 ページ）

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2**　**［機器設定］をクリックし、［インターネット時刻設定］をクリックします。**

**3**　**詳細情報を設定します。**




| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| 自動時刻設定 | インターネット時刻設定の有効／無効を設定します。有効にするときは「ON」、無効にするときは「OFF」を選択します。 | ON<br>OFF |
| サーバーアドレス | 時刻サーバーのサーバー名またはサーバーアドレスを入力します。 | サーバー名のときは、半角英数字 50 文字<br>サーバーアドレスのときは、XXX.XXX.XXX.XXX 形式（XXX は数字で 0 ～ 255） |
| サーバー接続状態 | インターネット時刻サーバーとの現在の接続状態（「接続中」、「停止中」、「稼動中」、または異常状態）が表示されます。<br>［今すぐ更新］をクリックすると、時刻サーバーへの同期を実行します。 | — |
| 　同期時刻 | 同期更新が行われた時刻が表示されます。 | — |
| 　前回同期時刻 | 前回同期更新が行われた時刻が表示されます。 | — |
| タイムゾーン | 本商品で設定されているタイムゾーンが表示されます。<br>「タイムゾーンの設定」をクリックすると、設定画面が表示されます。 | — |

**4**　**［保存］をクリックします。**

これで手順は終了です。

**補 足**

- __の付いている値が、工場出荷時の設定です。
- ［初期化］をクリックすると、工場出荷時の設定値に戻ります。

# 本商品の機器設定を行う

ダイヤル種別やファクス受信モード、メールゲートウェイの設定など、本商品を使用するために必要な設定をネットワーク設定画面から設定できます。操作パネルからも、同じ設定ができます。

## その他のネットワーク設定を行う

ネットワーク接続速度の切り替えを設定します。

**補足**

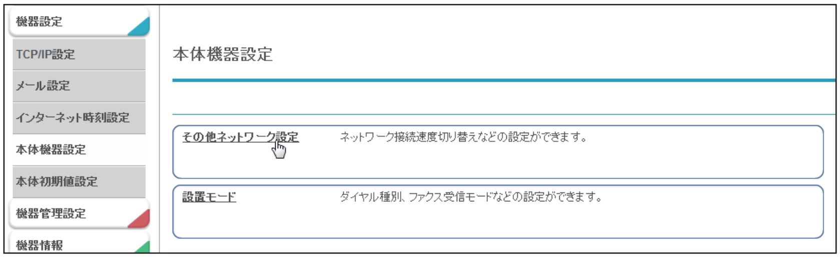
操作パネルの機器設定でも、ネットワーク設定をすることができます。詳細は『取扱説明書』第８章の「ネットワーク設定をする」を参照してください。

**1** ［管理画面］をクリックし、ログインします。(→ 3-12 ページ)

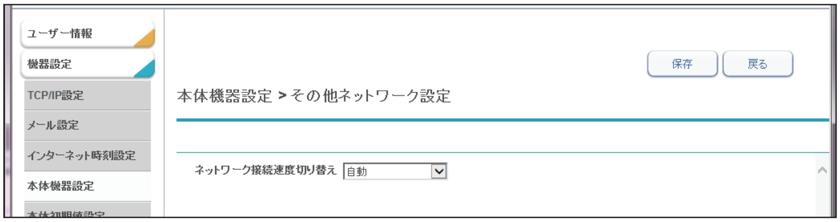
管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** ［機器設定］をクリックし、［本体機器設定］をクリックします。

**3** 「その他ネットワーク設定」をクリックします。




**4** 詳細情報を設定します。




| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| ネットワーク接続速度切り替え | 通信速度や通信方式を切り替えられます。ネットワーク通信でエラーが発生するときに変更してください。 | 自動<br>100Mbps - 全二重<br>100Mbps - 半二重<br>10Mbps - 全二重<br>10Mbps - 半二重 |

**5** ［保存］をクリックします。

これで手順は終了です。

**補足**

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

# 設置モードの設定を行う

機器を使用するために必要な設定ができます。

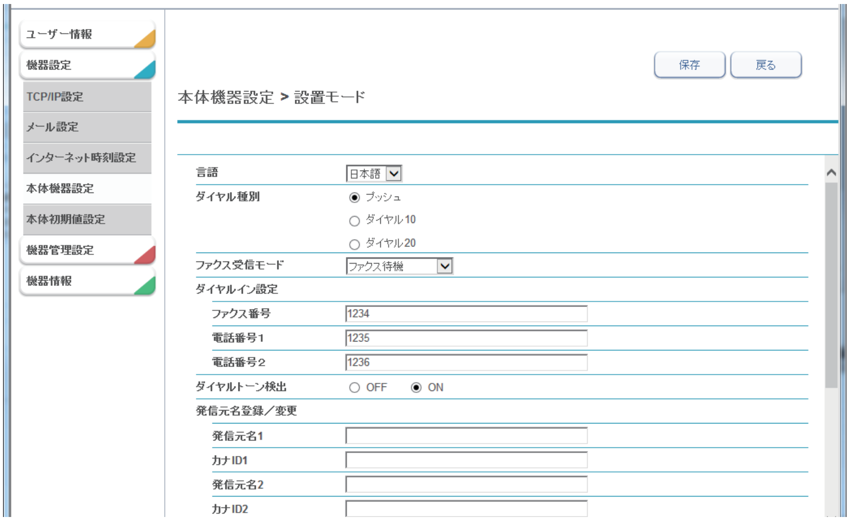
**1** ［管理画面］をクリックし、ログインします。(→ 3-12 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** ［機器設定］をクリックし、［本体機器設定］をクリックします。

**3** 「設置モード」をクリックします。

**4** 詳細情報を設定します。




設定項目については、『取扱説明書』第 1 章の「初期設定をする（設置モード）」を参照してください。

**5** ［保存］をクリックします。

これで手順は終了です。

# 本体の初期値を設定する

各機能の初期値設定ができます。
初期値とは、〈リセット〉を押して設定を元に戻したときの設定値です。よく使う設定を初期値にしておくと、操作のたびに設定する手間が省けます。

## 設定のしかた

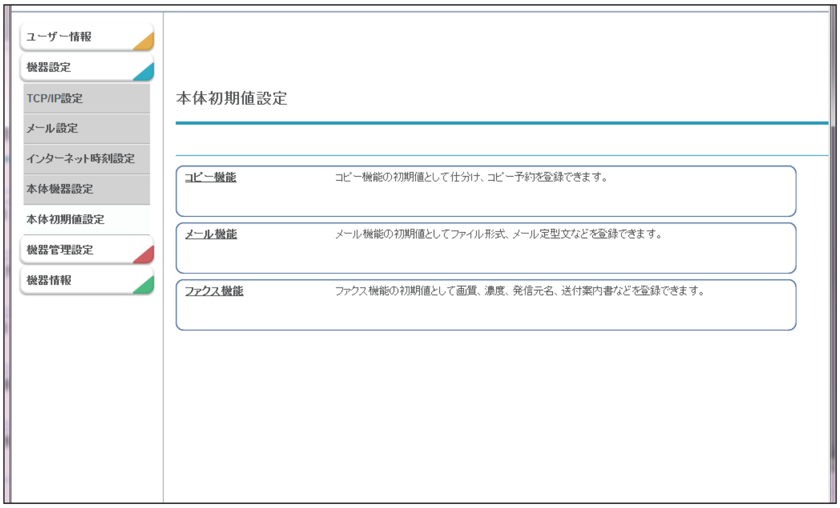
コピー、メールまたはファクスの初期値を設定できます。

**1** **［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。****（→ 3-10 ページ）**

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［機器設定］をクリックし、［本体初期値設定］をクリックします。**

**3** **初期値を設定したい機能をクリックします。**




**4** **初期値を設定します。**

設定項目については、『取扱説明書』第 7 章の「初期値を設定する」を参照してください。

**5** **［保存］を押します。**

これで手順は終了です。

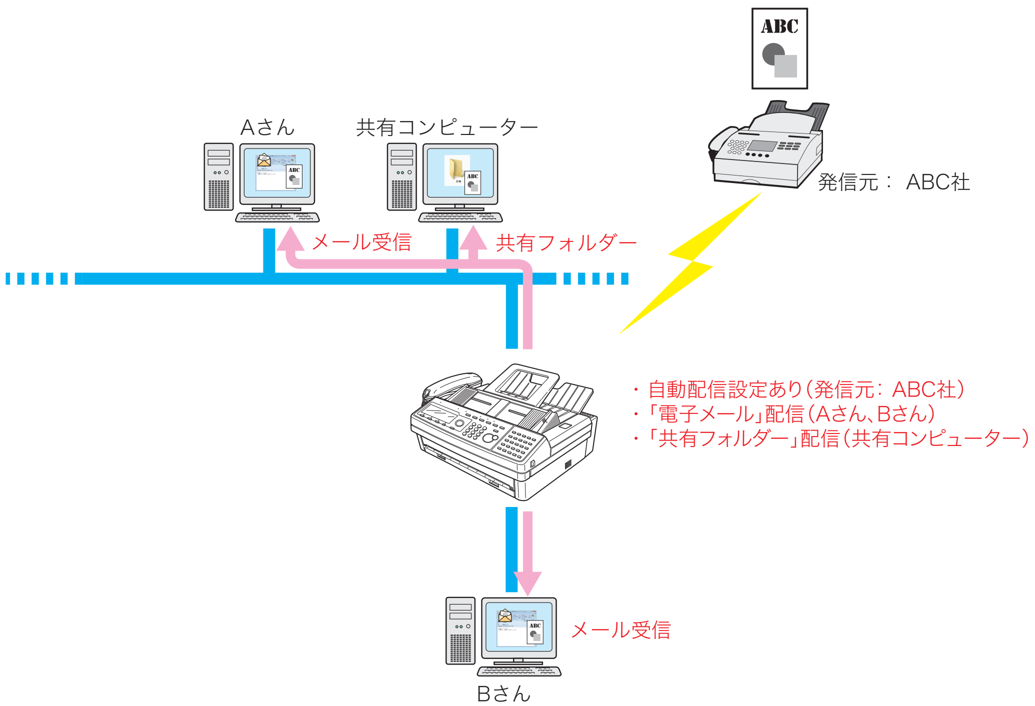
# 受信文書を指定した場所に自動配信する（自動配信機能）

受信したファクスまたはインターネットファクスを指定した場所（電子メール、共有フォルダーなど）に自動で配信できます。
たとえば、次のような場合に自動配信設定を行います。

- 取引先から送られたファクス文書や宛先不明のファクスを、プリントしないでコンピューターの共有フォルダーに保存する（ペーパーレス受信）
- 取引先から本社に送られたファクス文書を各支店に電子メールで転送し、同時に本社で印刷する

## 自動配信機能について

「自動配信機能」は、受信したファクスまたはインターネットファクスの配信を自動で行う機能です。
自動配信の設定を行うと、受信したファクスを指定した場所へ配信できます。




自動配信を行うためには、「共通設定」と「個別設定」を設定します。

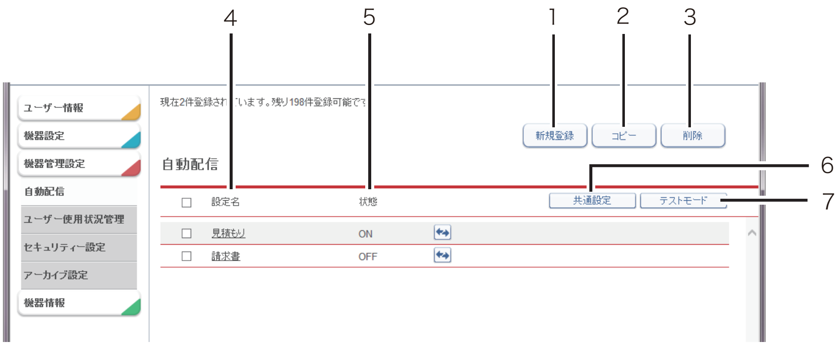
| 共通設定 | 個別設定 |
|---|---|
| 自動配信機能の全体に関する設定：<br>・自動配信設定の ON ／ OFF<br>・エラー処理方法、PDF の暗号化方法 | 配信条件の設定：<br>・配信対象になるメールやファクスの条件<br>・配信先や配信日時などの設定 |

# 自動配信を設定する（共通設定）

**1** ［管理画面］をクリックし、ログインします。(→ 3-12 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** ［機器管理設定］をクリックし、［自動配信］をクリックします。




| 番号 | 項目 | 説明 |
|---|---|---|
| 1 | 新規登録 | 新規の自動配信設定（個別）を登録します。(→ 4-49 ページ) |
| 2 | コピー | 設定した自動配信設定のコピーを作成します。(→ 4-56 ページ) |
| 3 | 削除 | 一覧から選んだ自動配信設定を削除します。(→ 4-57 ページ) |
| 4 | 設定名 | 登録した自動配信設定の名前を表示します。<br>クリックすると、「自動配信設定」画面が表示され、登録済みの自動配信設定を再編集できます。 |
| 5 | 状態 | 自動配信設定の状態（有効／無効）を表示します。<br>有効のときは「ON」、無効のときは「OFF」と表示されます。[↔]をクリックすると、ON ／ OFF を切り替えられます。<br>設定後、フッター部分の[↔]（自動配信切り替え）ボタンにて、自動配信全体の ON ／ OFF を切り替えることができます。(→ 3-8 ページ) |
| 6 | 共通設定 | 自動配信の有効／無効、配信時にエラーが発生したときの処理などの設定を行います。 |
| 7 | テストモード | 任意のファクス番号またはメールアドレスを指定して、該当する自動配信設定を一覧表示します。<br>自動配信が正しく設定されているかを確認できます。(→ 4-55 ページ) |

**3** ［共通設定］をクリックします。

## 4 配信情報を設定します。




| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| 配信設定 | 自動配信設定の有効／無効を設定します。<br>有効にするときは「ON」､無効にするときは「OFF」を選択します。配信設定の ON ／ OFF は､フッター部の「自動配信設定切り替え」の ON ／ OFF 表示と連動しています。 | ON<br>OFF |
| 添付ファイル形式 | 配信する文書のファイル形式を指定します | PDF<br>TIFF |

## 5 ［保存］をクリックします。

これで手順は終了です。

**補 足**

- __の付いている値が、工場出荷時の設定です。
- ［初期化］をクリックすると、工場出荷時の設定値に戻ります。

# 自動配信を設定する（個別設定）

自動配信の個別設定を行います。

**補 足**

- 自動配信設定は、最大 200 件まで登録できます。
- 操作パネルの機器設定でも、自動配信を設定できます。詳細は『取扱説明書』第 2 章の「受信文書を配信する（自動配信）」を参照してください。

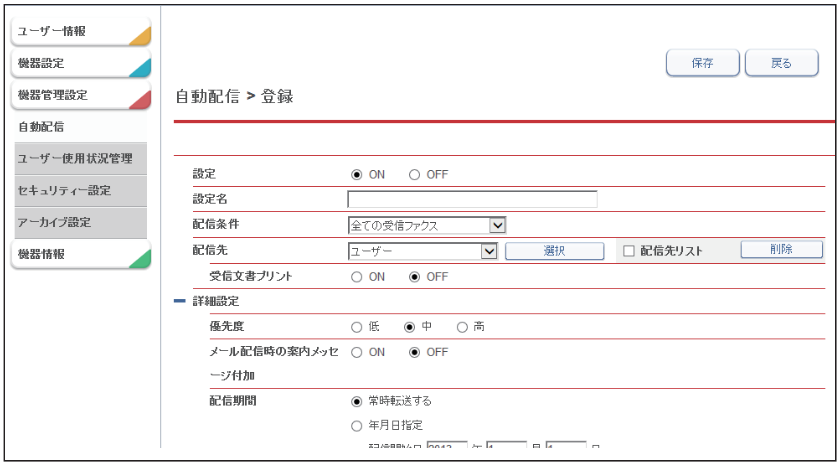
**1** ［管理画面］をクリックし、ログインします。（→ 3-12 ページ）

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** ［機器管理設定］をクリックし、［自動配信］をクリックします。

**3** ［新規登録］をクリックします。

**4** 配信情報を設定します。




### 基本設定

| 項目 | | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|---|
| 設定 | | 個別の自動配信設定の有効／無効を設定します。有効にするときは「ON」、無効にするときは「OFF」を選択します。 | ON<br>OFF |
| 設定名 | | 自動配信設定の名前を入力します。必ず入力してください。 | 全角 15 文字<br>(半角 30 文字) |
| 配信条件 ＊1 | 条件設定項目 | 配信対象となる条件をプルダウンメニューから選択します。選択できる条件は以下のとおりです。<br>全ての受信ファクス：<br>すべての送信元のファクスが対象となります。<br>任意のファクス番号：<br>指定した送信元のファクス番号が対象となります。<br>送信元不明 / ジャンク（ファクス）：<br>発信元がファクス番号を送ってこないか、ナンバー・ディスプレイにて 184 を付けて送信したときが対象となります。 | 半角数字<br>24 文字 |

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th>説明</th><th>設定値</th></tr>
<tr><td rowspan="4">配信条件*1</td><td>条件設定項目</td><td>ファクス番号が宛先表に一致：<br>宛先表に登録されている送信元のファクス番号が対象となります。<br>全ての受信メール：<br>すべての送信元のメールが対象となります。<br>任意のメールアドレス（From）：<br>指定した送信元のメールアドレス（From）が対象となります。<br>送信元不明 / ジャンク（メール）：<br>送信先がメールアドレスを示さなかったとき（空欄）が対象となります。<br>メールアドレスが宛先表に一致：<br>宛先表に登録されている送信元のメールアドレスが対象となります。<br>件名（Subject）：<br>指定したメールの件名（Subject）が対象となります。<br>F コード*3：<br>F コード受信したときのサブアドレスが対象となります。必要に応じてパスワードを設定できます。</td><td>半角英数字<br>50 文字<br><br>全角 40 文字<br>（半角 80 文字）<br><br>サブアドレス：<br>20 桁（*、#も使用可能）<br>パスワード：<br>20 桁（*、#も使用可能）</td></tr>
<tr><td>検索パラメーター</td><td>条件設定項目が、任意のファクス番号、任意のメールアドレス、件名、F コードのときは、検索パラメーターをプルダウンメニューから選択します。<br>選択できる検索パラメーターは以下のとおりです。<br>F コードは、「が次と一致する」しか選択できません。<br>が次と一致する：　設定した文字列と完全に一致する項目を検出します。<br>が次で始まる：　設定した文字列で始まる項目を検出します。<br>が次で終わる：　設定した文字列で終わる項目を検出します。<br>が次を含む：　設定した文字列を含んだ項目を検出します。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>[追加]</td><td>配信条件を追加します。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>[削除]</td><td>配信条件を削除します。</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="2">配信先*2</td><td>配信先の選択</td><td>プルダウンメニューから「ユーザー」、「宛先表」、「フォルダー」のいずれかを選択し、[選択] をクリックします。各配信先の選択画面が表示されます。（→ 4-52 ページ）</td><td>—</td></tr>
<tr><td>配信先リスト</td><td>「配信先選択」で設定した配信先が一覧表示されます。<br><br>補足<br>配信先を配信先リストから削除するときは、該当する配信先のチェックボックスにチェックを入れて［削除］をクリックします。一番上のチェックボックスにチェックを入れると、配信先リストのすべての配信先を選択できます。</td><td>—</td></tr>
</table>

| 項目 | | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|---|
| 配信先＊2 | 受信文書プリント | 受信したファクスまたはインターネットファクスを本商品から印刷します。<br>印刷するときは「ON」、印刷しないときは「OFF」を選択します。 | ON<br>OFF |

＊１　配信条件は、設定項目によって最大３項目まで組み合わせられます。

＊２　配信先は必ず１つ設定されている必要があります。

＊３　相手が指定したＦコードのサブアドレスやパスワードが、本商品のＦコードボックスで使われているときは、自動配信の対象とならずに、そのＦコードボックスに受信します。

### 詳細設定

［＋］をクリックすると、設定項目が表示されます。

| 項目 | | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|---|
| 優先度＊1 | | 配信設定の優先度を「高」、「中」、「低」から選択します。 | 低<br>中<br>高 |
| メール配信時の案内メッセージ付加 | | 配信案内のメッセージを付加します。配信の相手先がインターネットファクスのときのみ有効です。<br>付加するときは「ON」、付加しないときは「OFF」を選択します。 | ON<br>OFF |
| 配信期間 | | 配信期間を設定します。 | 常時転送する<br>年月日指定<br>曜日時刻指定 |
| | 常時転送する | 常に自動配信を実行します。 | ― |
| | 年月日指定 | 配信開始日から終了日までを指定してその期間中だけ自動配信を実行します。 | 年：1992 ～ 2036<br>月：1 ～ 12<br>日：1 ～ 31 |
| | 曜日時刻指定 | 指定した曜日とその配信開始時間から終了時間で自動配信を実行します。（曜日は複数指定可）<br>自動配信の実行を１週・毎週のいずれかで設定できます。 | 曜日 : 月～日<br>時 : 0 ～ 23<br>分 : 0 ～ 59 |

＊１　優先度について

優先度の高いものから配信条件が適用されます。配信設定の配信条件が一致すると、そのほかの配信条件の配信は実行されません。たとえば、優先度「高」の配信条件が一致すると、「中」、「小」の配信条件の配信は実行されません。

## 5　［保存］をクリックします。

これで手順は終了です。

補 足

＿の付いている値が、工場出荷時の設定です。

## ❑ 配信先の選択で「ユーザー」を選択した場合

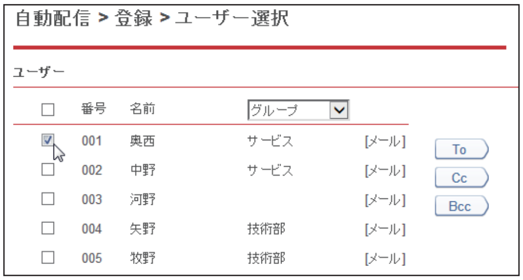
「ユーザー選択」画面のユーザー名一覧には、本商品に登録されているすべてのユーザー名が表示されています。
ユーザーはグループ単位でも設定できます。プルダウンメニューで「グループ」を選択すると、ユーザー名一覧がグループ名一覧に変わります。

**1** **配信情報の設定を行います。**

「自動配信を設定する（個別設定）」（4-49 ページ）を参照してください。

**2** **配信先で「ユーザー」を選択し、［選択］をクリックします。**

**3** **配信するユーザー名またはグループ名のチェックボックスにチェックを入れます。**




一番上のチェックボックスにチェックを入れると、表示されているすべてのユーザーまたはグループを選択できます。

**4** **配信宛先登録ボタンをクリックします。**

チェックした宛先が右の宛先リストに表示されます。

| 種類 | 意味 |
|---|---|
| To | 電子メールの配信宛先として登録します。 |
| Cc | 電子メールの同報配信宛先として登録します。この宛先は、本来の配信相手（To）にも通知されます。 |
| Bcc | 電子メールの同報配信宛先として登録します。この宛先は、本来の配信相手（To/Cc）には通知されません。 |

・追加したユーザー名またはグループ名を配信先リストから削除するときは、該当するユーザー名またはグループ名をチェックして［削除］をクリックします。
・一番上のチェックボックスにチェックを入れると、配信先リストのすべてのユーザー名またはグループ名を選択できます。

**5** **［保存］をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・配信先の設定を確定し、「自動配信設定」画面に戻ります。

## ❑ 配信先の選択で「宛先表」を選択した場合

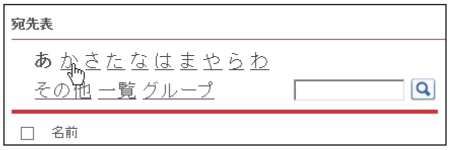
**1** **配信情報の設定を行います。**

「自動配信を設定する（個別設定）」（4-49 ページ）を参照してください。

**2** **配信先で「宛先表」を選択し、[選択] をクリックします。**

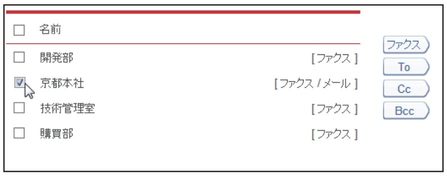
**3** **宛先のカテゴリーを選択します。**

該当する宛先が一覧表示されます。




・文字列で検索することもできます。
・入力ボックスに文字列を入力し、をクリックします。

**4** **送信する宛先のチェックボックスにチェックを入れます。**




一番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧のすべての宛先を選択できます。

**5** **送信宛先登録ボタンをクリックします。**

チェックした宛先が右の宛先リストに表示されます。

| 種類 | 意味 |
|---|---|
| ファクス | ファクスの送信宛先として登録します。 |
| To | 電子メールの送信宛先として登録します。 |
| Cc | 電子メールの同報送信宛先として登録します。この宛先は、本来の送信相手（To）にも通知されます。 |
| Bcc | 電子メールの同報送信宛先として登録します。この宛先は、本来の送信相手（To/Cc）には通知されません。 |

・追加した宛先を宛先リストから削除するには、該当する宛先をチェックして [削除] をクリックします。
・一番上のチェックボックスにチェックを入れると、宛先リストのすべての宛先を選択できます。

**6** **[保存] をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・配信先の設定を確定し、「自動配信設定」画面に戻ります。

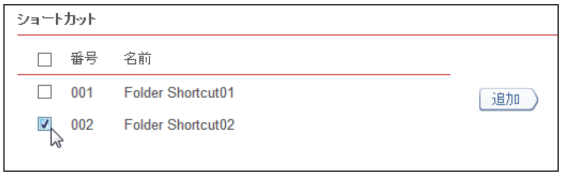
## ❑ 配信先の選択で「フォルダー」を選択した場合

**1** **配信情報の設定を行います。**

「自動配信を設定する（個別設定）」（4-49 ページ）を参照してください。

**2** **配信先で「フォルダー」を選択し、［選択］をクリックします。**

**3** **配信するショートカットのチェックボックスにチェックを入れます。**




一番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧のすべてのショートカットを選択できます。

**4** **［追加］をクリックします。**

・追加したショートカットを配信先リストから削除するには、該当するショートカットをチェックして［削除］をクリックします。
・一番上のチェックボックスにチェックを入れると、配信先リストのすべてのショートカットを選択できます。

**5** **［保存］をクリックします。**

・これで手順は終了です。
・配信先の設定を確定し、「自動配信設定」画面に戻ります。

# 自動配信のテストを行う

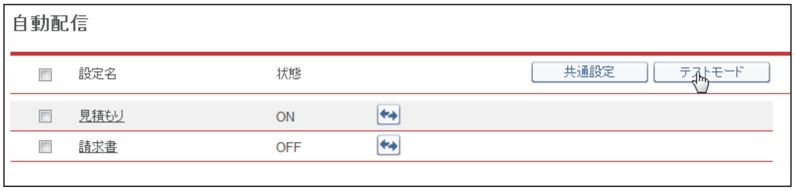
設定した自動配信が、期待したとおりに動作するかどうか確認できます。自動配信のテストを行うと、配信条件に一致する配信設定を検出し一覧表示します。
配信条件は任意のファクス番号、F コード（サブアドレス、パスワード）、メールアドレス(From)、件名（Subject）です。

**1** **［管理画面］をクリックし、ログインします。****(→ 3-12 ページ)**

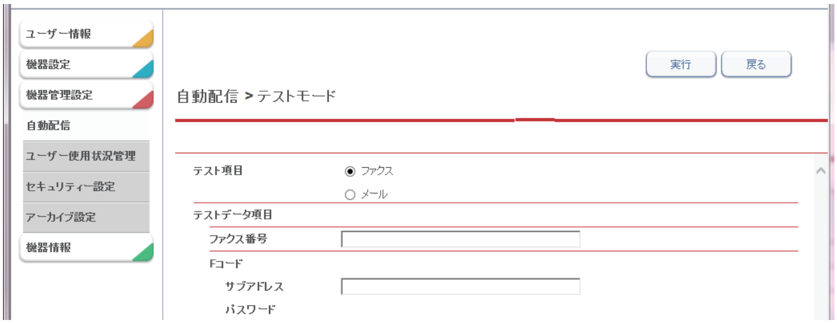
管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［機器管理設定］をクリックし、［自動配信］をクリックします。**

**3** **「自動配信」設定一覧画面で［テストモード］をクリックします。**




**4** **テスト項目を設定します。**




| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| テスト項目 | テストの対象となる項目（ファクスまたはメール）を選択します。 | <u>ファクス</u><br>メール |
| テストデータ項目 | テストのデータ設定を入力します。<br>選択したテスト項目によって設定が異なります。 | — |
| ファクス番号 | テスト項目で「ファクス」を選択したときに表示されます。<br>ファクス番号を入力します。 | 半角数字 24 桁<br>(*、#、-、ダイヤル記号も使用可能) |
| F コード | テスト項目で「ファクス」を選択したときに表示されます。<br>サブアドレス： F コードのサブアドレスを入力します。<br>パスワード： F コードのパスワードを入力します。 | サブアドレス：<br>20 桁 (*、# も使用可能)<br>パスワード：<br>20 桁 (*、# も使用可能) |
| メールアドレス(From) | テスト項目で「メール」を選択したときに表示されます。<br>メールアドレスを入力します。 | 半角英数記号 50 文字 |

| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| 件名（Subject） | テスト項目で「メール」を選択したときに表示されます。<br>件名を入力します。 | 全角 40 文字（半角 80 文字） |

**5**　**［実行］をクリックします。**

・一致した件数と一致したテストデータ項目が表示されます。
・詳細設定の「優先度」の条件は結果に含まれません。低、中、高、すべての結果が含まれます。




# 既存の自動配信設定を利用して新規作成する（コピー）

すでに設定済みの自動配信設定を利用して新規の自動配信設定を作成できます。

**1**　**［管理画面］をクリックし、ログインします。**(→ 3-12 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2**　**［機器管理設定］をクリックし、［自動配信］をクリックします。**

**3**　**コピー元となる自動配信設定のチェックボックスにチェックを入れます。**




**4**　**［コピー］をクリックします。**

自動配信設定のコピーを作成し、「自動配信設定」画面が表示されます。配信情報にはコピー元の配信設定が入力されています。

**5**　**「自動配信設定」画面で、新規の配信設定の情報に合わせて設定を変更します。**

「自動配信を設定する（個別設定）」（4-49 ページ）の手順 4 を参照してください。

**6**　**［保存］をクリックします。**

これで手順は終了です。

# 自動配信設定を削除する

不要になった自動配信設定を「自動配信」設定一覧から削除します。

**1** **［管理画面］をクリックし、ログインします。**(→ 3-12 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［機器管理設定］をクリックし、［自動配信］をクリックします。**

**3** **削除する自動配信設定のチェックボックスにチェックを入れます。**




・一番上のチェックボックスにチェックを入れると、すべての自動配信設定を選択できます。
・チェックを解除するには、再度チェックボックスをクリックします。

**4** **［削除］をクリックします。**

「選択された設定を削除します。よろしいですか？」と表示されます。

**5** **［OK］をクリックします。**

これで手順は終了です。

# ユーザーの使用状況を管理する

ユーザーごとのコピーまたはファクスの、それぞれの総ページ数を確認できます。

## 使用状況を確認する

ユーザーの使用状況履歴を画面で一覧表示したり、印刷したりできます。

**補足**

操作パネルの機器設定でも、使用状況を確認できます。詳細は『取扱説明書』第８章の「ユーザーの使用状況を管理する」を参照してください。

### ❑ 使用状況を一覧表示する

**1 ［管理画面］をクリックし、ログインします。****(→ 3-12 ページ)**

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2 ［機器管理設定］をクリックし、［ユーザー使用状況管理］をクリックします。**

**3 使用状況管理履歴を確認します。**




| 項目名 | 説明 |
|---|---|
| ユーザー | ユーザー名を表示します。 |
| ファクス | ファクス通信のページ枚数を表示します。 |
| コピー | コピーのページ枚数を表示します。 |

・1 行目には全ユーザーの合計が表示されます。
・ゲストユーザーの場合、グループはゲストです。
・プルダウンメニューで「ユーザー」、「グループ」を切り替えることによって、ユーザー順またはグループ順に表示を並べ替えられます。
・グループ順で並べ替えを行っている場合、グループ名の横の［+］をクリックすると、グループ内のユーザーが表示されます。

# ユーザー使用状況管理リストをプリントする

## ❏ ユーザー全員すべて印刷する

現在表示されている履歴を印刷します。

**1** **「使用状況」の一覧画面を開きます。**

「使用状況を一覧表示する」（4-58 ページ）を参照してください。

**2** **［プリント］をクリックします。**

## ❏ ユーザーごと個別に印刷する

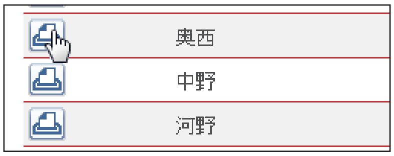
選択したユーザーの履歴を印刷します。

**1** **「使用状況」の一覧画面を開きます。**

「使用状況を一覧表示する」（4-58 ページ）を参照してください。

**2** **印刷するユーザーのをクリックします。**

「リストを印刷します。よろしいですか？」と表示されます。




**3** **［OK］をクリックします。**

これで手順は終了です。

# 使用状況管理履歴をダウンロードする

現在表示されている履歴を CSV 形式でダウンロードします。

**1** **「使用状況」の一覧画面を開きます。**

「使用状況を一覧表示する」（4-58 ページ）を参照してください。

**2** **［ダウンロード］をクリックします。**

「～を開くか、または保存しますか？」と表示されます。

**3** **［保存］をクリックします。**

**4** **保存する場所と名前を指定し、［保存］をクリックします。**

これで手順は終了です。

# カウンターをリセットする

本商品のカウンターをリセットします。

補足

- カウンターをリセットすると、今までの集計がすべて消去されますのでご注意ください。
- 操作パネルの機器設定でも、集計データをリセットできます。詳細は『取扱説明書』第8章の「ユーザーの使用状況を管理する」を参照してください。

**1** **［管理画面］をクリックし、ログインします。**(→ 3-12 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［機器管理設定］をクリックし、［ユーザー使用状況管理］をクリックします。**

**3** **［リセット］をクリックします。**

「カウンターをリセットします。よろしいですか？」と表示されます。

**4** **［OK］をクリックします。**

これで手順は終了です。

# セキュリティーを設定する

ユーザーや本商品に対し権限を設定して、セキュリティーをまとめて設定できます。
セキュリティーには、外部からのアクセスを制限するアクセス制限、本商品に対して設定制限を行うマシンポリシーがあります。

## アクセス制限を設定する

外部ネットワークからのアクセス要求に対して、アクセス元の MAC アドレスおよび IP アドレスによってアクセス制限を設けられます。MAC アドレスおよび IP アドレスは、それぞれ 50 件制限できます。

**補 足**

アクセス元のネットワークが別セグメントの場合、MAC アドレスが保持されないため、アクセスを制限できません。

**1** **［管理画面］をクリックし、ログインします。**(→ 3-12 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［機器管理設定］をクリックし、［セキュリティー設定］をクリックします。**

**3** **「アクセス制限」をクリックします。**

**4** **詳細情報を設定します。**



| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| MAC アドレスによるアクセス制限 | 制限する MAC アドレスを設定します。 | — |
| 設定＊1 | アクセス制限の基本ポリシーを選択します。<br>「指定アドレス以外を全て拒否する」「指定アドレス以外を全て許可する」のいずれかから選択します。<br>「設定を有効にする」をチェックすると、設定内容が有効となります。 | 指定アドレス以外を全て拒否する<br>指定アドレス以外を全て許可する |
| MAC アドレスリスト＊2 | 設定で選択した、基本ポリシーの例外となるアドレスを入力します。<br>•「指定アドレス以外を全て拒否する」を選択したときは、許可する MAC アドレスを入力します。<br>•「指定アドレス以外を全て許可する」を選択したときは、拒否する MAC アドレスを入力します。<br>最大 50 件まで登録できます。<br><br>アドレスを入力したあと、[追加] をクリックすると、リストに追加されます。<br>•リストから入力したアドレスを削除するには、チェックボックスにチェックを入れ、[削除] をクリックします。<br>•チェックを解除するには、再度チェックボックスをクリックします。 | XX: XX: XX: XX: XX: XX 形式（XX は 0 ～ 9、A ～ F） |
| IP アドレスによるアクセス制限 | 制限する IP アドレスを設定します。 | — |
| 設定＊1 | アクセス制限の基本ポリシーを選択します。<br>「指定アドレス以外を全て拒否する」「指定アドレス以外を全て許可する」のいずれかから選択します。<br>「設定を有効にする」をチェックすると、設定内容が有効となります。 | 指定アドレス以外を全て拒否する<br>指定アドレス以外を全て許可する |
| IPv4 アドレスリスト＊2 | 設定で選択した、基本ポリシーの例外となる IPv4 のアドレス（個別指定、MASK 指定、範囲指定）を入力します。<br>•「指定アドレス以外を全て拒否する」を選択したときは、許可する IPv4 アドレスを入力します。<br>•「指定アドレス以外を全て許可する」を選択したときは、拒否する IPv4 アドレスを入力します。<br><br>アドレスを入力したあと、[追加] をクリックすると、リストに追加されます。<br>•リストから入力したアドレスを削除するには、チェックボックスにチェックを入れ、[削除] をクリックします。<br>•チェックを解除するには、再度チェックボックスをクリックします。 | XXX.XXX.XXX.XXX 形式（XXX は数字で 0 ～ 255） |

＊1 リストに 1 件以上登録されている場合、基本ポリシーの設定を変更できません。

＊2 基本ポリシーの設定によってアドレス入力の項目名およびリストタイトルの表示が許可・拒否のいずれかに変わります。（たとえば、「指定アドレス以外を全て許可する」を選択すると、アドレス入力項目は「拒否アドレス」、リストタイトルは「拒否リスト」のようになります）

## 5 [保存] をクリックします。

これで手順は終了です。

**補足**

- __の付いている値が、工場出荷時の設定です。
- ［初期化］をクリックすると、工場出荷時の設定値に戻ります。
- アクセス制限の設定後、ネットワーク設定画面にアクセスできなくなったときは、操作パネル側で「アクセス制限設定のクリア」を行ってください。詳細は、『取扱説明書』第８章の「ネットワーク設定をする」を参照してください。

# マシンポリシーを設定する

## ❑ マシンポリシーについて

マシンポリシーは本商品そのものに設定制限を持たせます。設定できるマシンポリシーは１つです。

## ❑ パネルログインモードについて

起動時の操作パネルのログイン状態を設定できます。

| パネルログインモード名 | 説明 |
|---|---|
| 初期ゲストログインモード | ゲストログインされた状態で起動します。起動時は待機画面が表示されます。ユーザーログインするときは、〈メニュー／機器設定登録〉→「ログイン」→［確定］と押してログイン画面を表示させせます。 |
| 初期ログアウトモード | ログアウトされた状態で起動します。起動時はログイン画面が表示されます。ゲストユーザーは、ログインしなくてもほかの画面に移動できます。 |

**補足**

ゲストアカウントの設定を「OFF」にすると、常に「初期ログアウトモード」となります。ほかの画面に移動するには、ユーザーログインが必要です。

## ❑ マシンポリシーを設定する

**補足**

マシンポリシーを設定するときは、操作パネルで操作を行わないでください。マシンポリシーの設定に失敗することがあります。

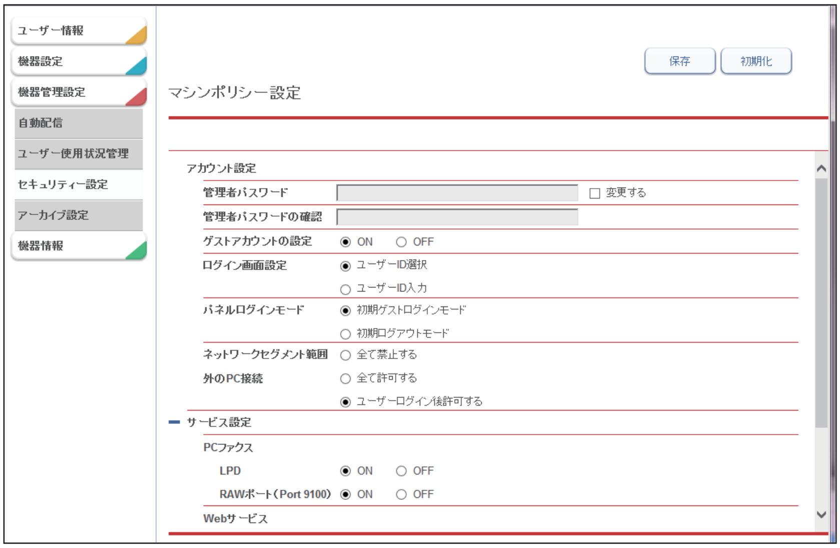
**1** **［管理画面］をクリックし、ログインします。**(→ 3-12 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［機器管理設定］をクリックし、［セキュリティー設定］をクリックします。**

**3** **「マシンポリシー設定」をクリックします。**

## 4 詳細情報を設定します。




| 項目 | 説明 | 設定値 |
| --- | --- | --- |
| アカウント設定 | ログインユーザーのアカウント設定を行います。 | — |
| 管理者パスワード | 管理画面にログインするためにパスワードを入力させるようにするには、ここでパスワードを設定します。<br>本体の管理者パスワードも、同じパスワードが設定されます。<br>入力するときは、「変更する」にチェックを入れます。 | 半角英数記号<br>28 文字 |
| 管理者パスワードの確認 | 管理者パスワードを再度入力します。 | 半角英数記号<br>28 文字 |
| ゲストアカウントの設定 | ゲストアカウントの有効／無効を設定します。<br>「OFF」に設定すると、パネルログインモードは表示されなくなります。（初期ログアウトモードになります） | ON<br>OFF |
| ログイン画面設定 | ログイン時に表示する画面を選択します。<br><br>ユーザー ID 選択：<br>ユーザー ID およびパスワード入力とユーザー情報一覧で構成されている画面です。一覧から選択することでアカウント ID を自動入力できます。<br>ユーザー ID 入力：<br>ユーザー ID およびパスワード入力で構成されている画面です。 | ユーザー ID 選択<br>ユーザー ID 入力 |
| パネルログインモード | パネルログインモードを選択します。<br>「初期ログインゲストログインモード」、「初期ログアウトモード」のいずれかから選択します。<br>「ゲストアカウントの設定」を「OFF」にすると、常に初期ログアウトモードとなり、この項目は表示されません。 | 初期ゲストログインモード<br>初期ログアウトモード |

| 項目 | | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|---|
| | ネットワークセグメント範囲外のPC接続 | ネットワークセグメント範囲外のコンピューターから、アクセス要求があったときの対処について選択します。「全て禁止する」、「全て許可する」、「ユーザーログイン時後許可する」のいずれかから選択します。<br>「ユーザーログイン後許可する」に設定すると、ネットワークセグメント範囲外のコンピューターからゲストログインできません。<br>また、パスワードを設定していないユーザーは、ネットワークセグメント範囲外のコンピューターからログインできません。 | 全て禁止する<br>全て許可する<br>ユーザーログイン後許可する |

**サービス設定**

［+］をクリックすると、設定項目が表示されます。

| 項目 | | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|---|
| PC ファクス | | 各 PC ファクスのサービスの許可・禁止を設定します。 | — |
| | LPD | LPD ポートの許可・禁止を設定します。<br>許可するときは「ON」、禁止するときは「OFF」を選択します。 | ON<br>OFF |
| | RAW ポート（Port 9100） | 9100 ポートの許可・禁止を設定します。<br>許可するときは「ON」、禁止するときは「OFF」を選択します。 | ON<br>OFF |
| Web サービス | | 各 Web サービスの許可・禁止を設定します。 | — |
| | HTTP | HTTP ポートの許可・禁止を設定します。<br>許可するときは「ON」、禁止するときは「OFF」を選択します。 | ON<br>OFF |
| メールサービス | | 各メールサービスの許可・禁止を設定します。 | — |
| | SMTP（標準 25 ポート） | SMTP（標準 25 ポート）の許可・禁止を設定します。<br>許可するときは「ON」、禁止するときは「OFF」を選択します。 | ON<br>OFF |
| デバイス設定 | | 各デバイス設定の許可・禁止を設定します。 | — |
| | LAN（有線） | LAN 接続の許可・禁止を設定します。 | ON<br>OFF |

**5** **［保存］をクリックします。**

［戻る］をクリックすると、マシンポリシー設定をキャンセルし、「マシンポリシー」設定画面に戻ります。

**補 足**

- __の付いている値が、工場出荷時の設定です。
- ［初期化］をクリックすると、工場出荷時の設定値に戻ります。

# 通信したデータを保存する（アーカイブ設定）

ファクスや電子メールで送受信した文書の内容を、指定した宛先にファクス送信したり、指定したフォルダーに格納したりできます。また、Evernote を保存先にすることもできます。

補 足

- アーカイブ設定は、設定した通信データに該当するすべての文書が対象となります。たとえば、「送信済みファクス」に対し保存設定を有効にしているときは、送信するファクス文書すべてがデータ保存の対象となります。
- 送受信が正常に行われた場合のみ、設定したデータ保存が行われます。エラーなどで正常に送受信されなかった場合、設定したデータ保存は行われません。
- アーカイブ設定が行われている場合、リアルタイム送信および手動送信（ハンドセットや［オフフック］を使った送信）はできません。
- Evernote を利用するには、Evernote の Web サイトにてアカウントを作成してください。Evernote の詳細については、Evernote の Web サイトをご確認ください。

## アーカイブの設定を行う

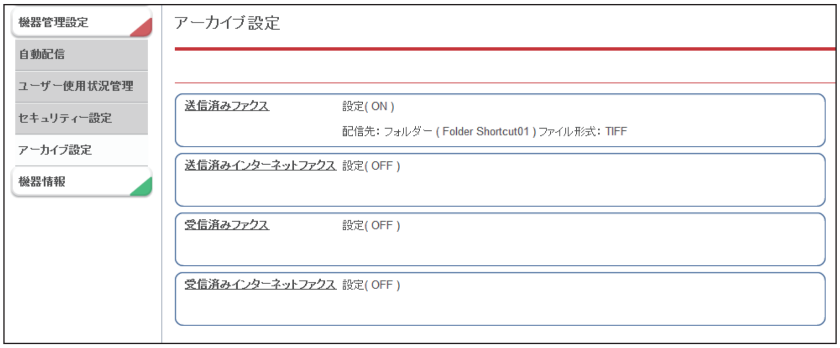
送信済みファクス、送信済みインターネットファクス、受信済みファクス、受信済みインターネットファクスの文書をフォルダーに保存したり、ほかのファクスへ送信したりできます。

**1** ［管理画面］をクリックし、ログインします。(→ 3-12 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** ［機器管理設定］をクリックし、［アーカイブ設定］をクリックします。

**3** アーカイブ設定したい通信データをクリックします。




**4** アーカイブ設定を行います。



| 項目 | 説明 |
|---|---|
| 設定 | アーカイブ設定の有効／無効を設定します。<br>機能を有効にするときは「ON」、無効にするときは「OFF」を選択します。 |
| アーカイブ先 | ［選択］をクリックして、通信データの保存（アーカイブ）先を設定します。詳細については、「アーカイブ先を指定する」（4-68 ページ）を参照してください。<br>アーカイブ先を設定すると、右側に一覧表示されます。アーカイブ先の削除を行うには、チェックボックスにチェックを入れ、［削除］をクリックします。 |
| ファイル形式 | アーカイブ先にフォルダーに指定したときの保存ファイル形式を選択します。「PDF」、「TIFF」のいずれかを選択できます。 |

**5 ［保存］をクリックします。**

これで手順は終了です。以降、アーカイブ設定の［ON］、［OFF］を選択するだけで、設定した条件で通信データの保存を行います。

**補 足**

［初期化］をクリックすると、初期設定に戻ります。

# アーカイブ先を指定する

さまざまな方法でアーカイブ先を指定できます。アーカイブ先は 1 件だけ登録できます。
Evernote をアーカイブ先に指定できるのは「受信済みファクス」と「受信済みインターネットファクス」だけです。




## ❑ 宛先表から指定する

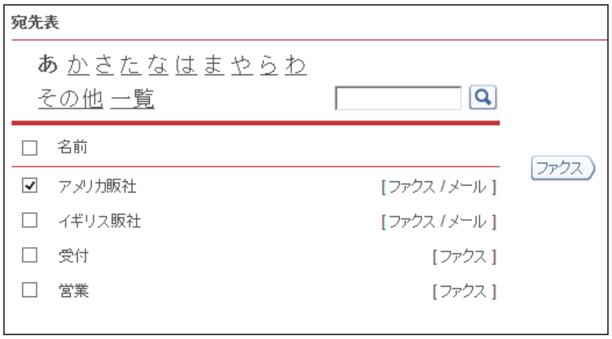
**1** **「アーカイブ設定」画面を開きます。**

「アーカイブの設定を行う」(4-66 ページ) を参照してください。

**2** **「アーカイブ先」から、[選択] をクリックします。**

**3** **「ファクス宛先」の「宛先表」から、[共有] をクリックします。**

**4** **宛先表から宛先をチェックし、[ファクス] をクリックします。**




・ファクス番号が登録されていないときは、ファクス送信宛先に指定できません。
・宛先を削除するときは、宛先リストから削除したい宛先をチェックし、[削除] をクリックします。

**5** **[保存] をクリックします。**

**6** **もう一度、[保存] をクリックします。**

「アーカイブの設定を行う」(4-66 ページ) の手順 4 に戻ります。

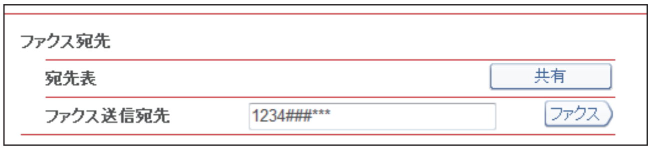
## ❑ ファクス送信宛先宛先を直接入力する

**1** 「アーカイブ設定」画面を開きます。

「アーカイブの設定を行う」（4-66 ページ）を参照してください。

**2** 「アーカイブ先」から、［選択］をクリックします。

**3** 「ファクス宛先」の入力ボックスに、相手先のファクス番号を入力します。




・ファクス番号は、半角数字 40 桁（*、#、- も使用可能）まで入力できます。
・ファクス番号入力時にダイヤル記号を挿入できます。ダイヤル記号については、『取扱説明書』第 2 章の「送信に関する設定」の「ダイヤル記号について」を参照してください。

**4** ［ファクス］をクリックします。

・宛先リストにアーカイブ先が表示されます。
・宛先を削除するときは、宛先リストから削除したい宛先をチェックし、［削除］をクリックします。

**5** ［保存］をクリックします。

「アーカイブの設定を行う」（4-66 ページ）の手順 4 に戻ります。

## ❑ フォルダーショートカットから指定する

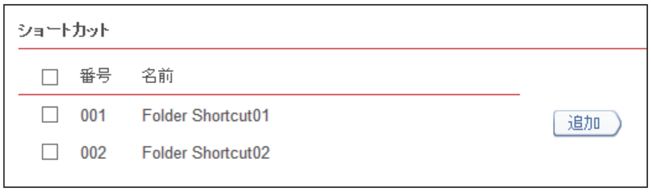
**1** 「アーカイブ設定」画面を開きます。

「アーカイブの設定を行う」（4-66 ページ）を参照してください。

**2** 「アーカイブ先」から、［選択］をクリックします。

**3** 「フォルダー宛先」の「フォルダーショートカット」から、［共有］をクリックします。

**4** フォルダーショートカットを選択し、［追加］をクリックします。




・宛先リストにアーカイブ先が表示されます。
・宛先を削除するときは、宛先リストから削除したい宛先をチェックし、［削除］をクリックします。

**5** ［保存］をクリックします。

**6** もう一度、［保存］をクリックします。

「アーカイブの設定を行う」（4-66 ページ）の手順 4 に戻ります。

## ❑ フォルダー送信先を直接入力する

**1** **「アーカイブ設定」画面を開きます。**

「アーカイブの設定を行う」（4-66 ページ）を参照してください。

**2** **「アーカイブ先」から、［選択］をクリックします。**

**3** **「フォルダー宛先」の「フォルダー送信先」の入力ボックスに、転送先のフォルダーパス名を入力します。**

- 全角 64 文字（半角 128 文字）まで入力できます。フォルダーパスに : * ? " < > | は使用できません。
- 入力は、「\\（コンピューター名）\（フォルダー名）\」の形で行います。

**4** **フォルダーのアクセスにユーザー名とパスワードが必要なときは、それぞれ入力します。**




**5** **［追加］をクリックします。**

- 宛先リストにアーカイブ先が表示されます。
- 宛先を削除するときは、宛先リストから削除したい宛先をチェックし、［削除］をクリックします。

**6** **［保存］をクリックします。**

「アーカイブの設定を行う」（4-66 ページ）の手順 4 に戻ります。

## ❑ フォルダー送信先を参照して入力する

**1** **「アーカイブ設定」画面を開きます。**

「アーカイブの設定を行う」（4-66 ページ）の手順 1 ～ 4 を参照してください。

**2** **「アーカイブ先」から、［選択］をクリックします。**

**3** **「フォルダー宛先」の「フォルダー送信先」にある［参照］をクリックします。**

- 接続されているネットワーク全体の一覧が表示されます。
- あらかじめフォルダーパスにコンピューター名を入力しておくと、そのコンピューターの共有フォルダー一覧を表示します。

## 4 表示されるコンピューター名またはフォルダー名をクリックして、転送先にしたいフォルダー名を選択します。




・フォルダーのアクセスにユーザー名とパスワードが必要なときは認証画面が表示されます。アクセス権のあるユーザー名とパスワードを入力し、[保存]をクリックします。
・[戻る]をクリックすると、1 つ前の階層に戻ります。
・[ルート]をクリックすると、一番先頭の階層（ルート）に戻ります。

## 5 [保存]をクリックします。

## 6 [追加]をクリックします。

・宛先リストにアーカイブ先が表示されます。
・宛先を削除するときは、宛先リストから削除したい宛先をチェックし、[削除]をクリックします。

## 7 [保存]をクリックします。

「アーカイブの設定を行う」（4-66 ページ）の手順 4 に戻ります。

### ❑ Evernote を指定する

「受信済みファクス」と「受信済みインターネットファクス」のアーカイブ先に、Evernote を設定できます。

## 1 「アーカイブ設定」画面を開きます。

「アーカイブの設定を行う」（4-66 ページ）のを参照してください。

## 2 「アーカイブ先」から、[選択]をクリックします。

## 3 「メールアドレス」に、Evernote のメールアドレスを入力します。




・特定のノートブックに保存するときは、ノートブックの名前を入力します。
・タグを付けて保存するときは、タグ名を入力します。「,」（カンマ）で区切ることで、複数のタグを入力できます。
・ノートブック名、タグ名ともに全角 9 文字（半角 18 文字）まで入力できます。
・ノートブック名、タグ名は、あらかじめ Evernote 側で作成しておいてください。

## 4 [追加]をクリックします。

・宛先リストにアーカイブ先が表示されます。
・宛先を削除するときは、宛先リストから削除したい宛先をチェックし、[削除]をクリックします。

## 5 [保存]をクリックします。

「アーカイブの設定を行う」（4-66 ページ）の手順 4 に戻ります。

# ジョブまたは通信履歴を確認する

現在実行中の通信ジョブまたはプリントジョブの状況や、ファクスおよび電子メールの通信履歴を確認できます。

## 実行中の通信ジョブを確認・中止する

ファクスおよび電子メールの送信予約の状況、および実行中の通信ジョブの進行状況を確認します。実行中の通信ジョブの中止もできます。

補 足

通信ジョブは、最大 100 件まで表示できます。

### ❑ 通信ジョブを確認する

**1** **［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。**(→ 3-10 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **［機器情報］をクリックし、「通信ジョブ」をクリックします。**



| | |
|---|---|
| 相手先名 | 通信ジョブの相手先名が表示されます。 |
| 枚数 | 送信する原稿のページ数が表示されます。送付案内書も枚数に含まれます。 |
| 送信日時 | 送信開始日時を設定している場合、設定した日時が YYYY MM/DD HH:MM の形式で表示されます。 |
| 状態 | 通信の状態が表示されます。<br>■送信の場合<br>送信結果が表示されます。<br>〈通常送信の場合〉<br>開始時刻待ち： 送信予約が受け付けられ、送信の順番待ち状態です。時刻指定送信を実行している場合は、指定された送信時刻待ち状態です。<br>送信中 / 通信中： 送信、通信処理を実行中です。<br>リダイヤル待ち： リダイヤル待ちの状態です。<br>OK： 正常に送信を完了しました。<br>エラー： 送信時にエラーが発生しました。<br>キャンセル中： 送信の中止処理中です。<br>キャンセル： 送信が中止されました。<br><br>〈リルート送信の場合〉<br>リルート送信とは、インターネットファクス送信時に通信エラーが発生した場合、ファクスで自動的に再送信する機能です。<br>リルート送信予約中： リルート送信予約が受け付けられ、送信の順番待ち状態です。<br>リルート送信中： リルート送信処理を実行中です。<br>リルート送信 OK： 正常にリルート送信を完了しました。<br>リルート送信エラー： リルート送信時にエラーが発生しました。<br>リルート送信キャンセル中： リルート送信の中止処理中です。<br>リルート送信キャンセル： リルート送信が中止されました。<br><br>補 足<br>リルート送信の場合、リルート送信する前のアドレスが表示され、リルート送信した結果が通信結果に表示されます。<br><br>■受信の場合<br>受信結果が表示されます。<br>受信中 / 通信中： 受信、通信処理を実行中です。<br>OK： 正常に受信を完了しました。<br>エラー： 受信時にエラーが発生しました。<br>受信原稿プリント待ち： 受信が完了したあと、原稿の印刷待ち状態です。<br>受信原稿プリント中： 受信が完了したあと、原稿の印刷中です。 |

## ❑ 通信ジョブを中止する

通信ジョブを中止し、「通信ジョブ」画面から削除します。

**1** **「通信ジョブ」一覧画面を開きます。**

「通信ジョブを確認する」（4-72 ページ）を参照してください。

**2** **通信ジョブ画面で中止する通信ジョブをチェックします。**




・複数の通信ジョブをチェックし、同時に中止できます。
・一番上のチェックボックスにチェックを入れると、表示されているジョブをすべて選択できます。
・通信ジョブに複数の相手先が設定されているときは、相手先名の横に［+］が表示されます。

**3** **［通信中止］をクリックします。**

通信中止の確認メッセージが表示されます。

**4** **［OK］をクリックします。**

## ❑ 相手先別に通信ジョブを中止する

通信ジョブに複数の相手先が設定されているときは、相手先別に通信ジョブを削除できます。

**1** **「通信ジョブ」一覧画面を開きます。**

「通信ジョブを確認する」（4-72 ページ）の手順 1 ～ 3 を参照してください。

**2** **中止する通信ジョブの、相手先名横の［+］をクリックします。**

相手先の一覧が表示されます。元に戻すには、相手先名横の［—］をクリックします。

**3** **中止する通信ジョブをチェックします。**




**4** **［通信中止］をクリックします。**

通信中止の確認メッセージが表示されます。

**5** **［OK］をクリックします。**

# 通信の履歴を確認する

送受信した通信の履歴を確認します。通信履歴の印刷やダウンロードもできます。
1,000 件まで確認できます。

## ❑ 通信履歴を確認する

**1** ［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。（→ 3-10 ページ）

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

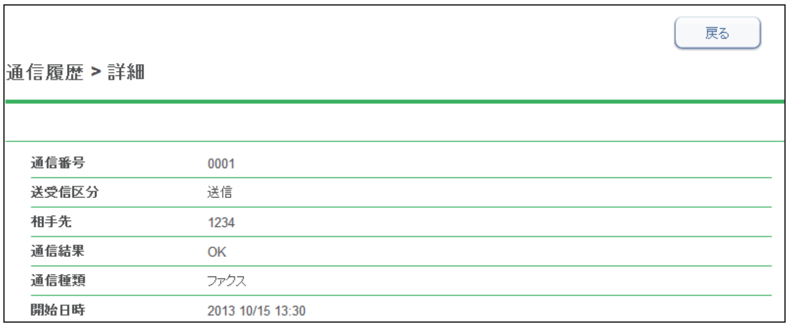
**2** ［機器情報］をクリックし、「通信履歴」をクリックします。




| 表示項目 | 説明 |
|---|---|
| 番号 | すべての通信の通し番号が表示されます。 |
| 宛先 | 宛先が表示されます。プルダウンメニューで、宛先別に通信履歴の表示を絞り込めます。 |
| 簡易結果 | 通信結果を「OK」または「Error」で表示します。プルダウンメニューで通信結果ごとに通信履歴の表示を絞り込めます。 |
| 送受信区分 | 通信が送信か受信かを表示します。プルダウンメニューで送受信区分ごとに通信履歴の表示を絞り込めます。 |
| 通信種類 | 「ファクス」、「メール」といった通信の種類が表示されます。プルダウンメニューで通信種類ごとに通信履歴の表示を絞り込めます。 |
| 日付 | 通信を開始した日時を表示します。 |

**3** 通信の詳細を確認する場合は、それぞれの履歴の i をクリックします。

詳細画面が表示されます。




・詳細画面では、通信の種類によって表示される項目が異なります。
・エラーコードの詳細については、『取扱説明書』第 10 章の「エラーメッセージが表示されたときは」を参照してください。

**4** ［戻る］をクリックして、通信履歴画面に戻ります。

## ❑ 通信履歴を印刷する

通信履歴を印刷します。各表示項目を絞り込んだ状態で印刷することもできます。

**補 足**

操作パネルの機器設定でも、通信管理レポートの印刷ができます。詳細は『取扱説明書』第 6 章の「通信履歴を管理する」を参照してください。

**1 「通信履歴」一覧画面を開きます。**

「通信履歴を確認する」（4-75 ページ）を参照してください。

**2 ［プリント］をクリックします。**




## ❑ 通信履歴をダウンロードする

通信履歴を CSV 形式でダウンロードします。

**1 「通信履歴」一覧画面を開きます。**

「通信履歴を確認する」（4-75 ページ）を参照してください。

**2 ［ダウンロード］をクリックします。**

「～を開くか、または保存しますか？」と表示されます。

**3 ［保存］をクリックします。**

**4 ダウンロード先となるフォルダーを指定したあと、任意のファイル名を入力します。**

**5 ［保存］をクリックします。**

通信履歴が CSV 形式のファイルで、指定したフォルダーにダウンロードされます。

# 機器設定を表示したりコピーしたりする

本商品の機器状態を表示します。
また、1 台の機器情報（各機能設定、宛先表など）を、同機種のほかの製品にコピー（インポート）して設定する時間を短縮できます。

**補 足**

ホーム画面でも機器状態を表示します。また、液晶ディスプレイの状態も確認できます。(→ 3-3 ページ)

## 機器状態を表示する

現在の機器の状態を表示したり、機器固有の名前や設置場所を設定したりできます。

**1** **［管理画面］をクリックしログインするか、［ユーザー画面］をクリックし、ユーザーでログインします。****(→ 3-10 ページ)**

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **「機器状態」が表示されていないときは、［機器情報］をクリックし、［機器状態］をクリックします。**

**3** **以下の項目を設定します。**




### 設定できる項目

以下の項目は、機器状態を設定できます。

| 項目 | 説明 | 設定値 |
|---|---|---|
| 機器名称 | 機器を識別するため、本商品の名前を入力します。 | 全角 20 文字（半角 40 文字）：製品名 |
| 設置場所 | 設定している機器の設置場所を入力します。 | 全角 50 文字<br>（半角 100 文字） |
| 連絡先 | 機器の管理者の連絡先を入力します。 | 全角 50 文字<br>（半角 100 文字） |

### 表示される機器状態

| 項目名 | 説明 |
|---|---|
| MAC アドレス | 本商品に設定されている MAC アドレスを表示します。 |
| ネットワーク接続 | 現在のネットワーク通信速度および通信方法を表示します。<br>以下の項目が表示されます。<br>100 Mbps - 全二重<br>100 Mbps - 半二重<br>10 Mbps - 全二重<br>10 Mbps - 半二重<br><br>「本体機器設定」の「その他のネットワーク設定」で設定した値が表示されます。(→ 4-43 ページ) |
| 電話回線 | 現在の電話回線の状態を表示します。<br>以下の項目が表示されます。<br>待機中<br>使用中 |
| スキャナー | 現在の自動原稿読み取り装置の状態を表示します。<br>以下の項目が表示されます。<br>不明<br>待機中<br>使用中<br>カバーが開いています<br>原稿づまりです<br>スキャナーランプ異常です |
| プリンター | 現在の印字部の状態を表示します。<br>以下の項目が表示されます。<br>不明<br>プリントできます<br>使用中<br>カバーが開いています<br>記録紙がありません<br>記録紙が残っています<br>紙づまりです<br>点検をお受けください |
| スキャンカウンター | コピー、ファクスの各機能で自動原稿送り装置を使用した枚数と合計枚数を表示します。 |
| プリントカウンター | コピー、ファクスおよびリストで印字した枚数と合計枚数を表示します。 |
| 機器構成 | 本商品に装着されている装置（オプションなど）の情報を表示します。 |
| ROM Version | 本商品のソフトウェアのバージョンを表示します。 |
| メンテナンス設定 | 設定状態をインポートしたりエクスポートしたりできます。<br>補 足<br>管理画面ログインしたときだけ表示されます。 |

**4** ［保存］をクリックします。

# 機器設定をエクスポートする

現在の機器設定をエクスポートします。
エクスポートしたデータは、同機種のほかの製品にインポートできます。

**1** **［管理画面］をクリックし、ログインします。**(→ 3-12 ページ)

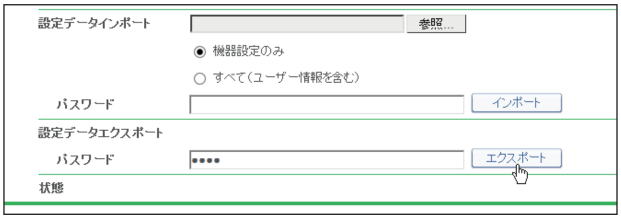
管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **「機器状態」が表示されていないときは、［機器情報］をクリックし、［機器状態］をクリックします。**

**3** **エクスポートするデータにパスワードを設定する場合は、「設定データエクスポート」の「パスワード」にパスワードを入力します。**

パスワードは、半角の英数字および記号で 28 文字まで設定できます。

**4** **［エクスポート］をクリックします。**




**5** **［保存］をクリックします。**

初期ファイル名は「製品名称 _ 機台番号 _ 日時（YYYYMMDDhhmmss）.mdx」です。

**補 足**

「状態」欄にエクスポート処理の結果を表示します。
- エクスポート完了しました。
- エクスポートできませんでした。

# 機器設定をインポートする

同機種のほかの製品の機器設定をインポートします。

補足

機器情報のインポートを実行すると、ユーザーが登録していた情報がすべて消去されますのでご注意ください。

**1** **［管理画面］をクリックし、ログインします。**(→ 3-12 ページ)

管理者パスワードを設定したときは、パスワードを入力します。

**2** **「機器状態」が表示されていないときは、［機器情報］をクリックし、［機器状態］をクリックします。**

**3** **「メンテナンス設定」の［参照］をクリックします。**

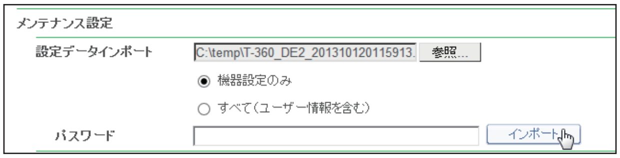
「ファイルを選択」ダイアログが表示されます。

**4** **インポートするファイルを選択し、［開く］をクリックします。**

**5** **インポートするデータにパスワードが設定されている場合は、「設定データインポート」の「パスワード」にパスワードを入力します。**

パスワードは、半角の英数字および記号です。

**6** **［インポート］をクリックします。**




・インポートを実行すると、ユーザーの登録情報はすべて削除されますのでご注意ください。
・機器設定のみインポートするときは、「機器設定のみ」を選択します。
・ユーザー情報も含めたすべての情報をインポートするときは、「すべて（ユーザー情報を含む）」を選択します。
・インポートされる設定データの違いについては、補足を参照してください。(→4-81 ページ)

**7** **［OK］をクリックすると、インポートが開始されます。**

インポートが終了すると、「機器状態」画面が表示されます。インポートが完了すると、機器が自動的に再起動します。

補足

「状態」欄にインポート処理の結果を表示します。( ) 内は結果の詳細を表します。

- インポート完了しました。
- インポートできませんでした。
- インポートデータの機種が不一致なため、インポートがキャンセルされました。
- インポートデータの仕向け先が不一致なため、インポートがキャンセルされました。
- インポートデータが不正なため、インポートがキャンセルされました。
- ［機器設定のみ］と［すべて］のインポート範囲は以下のとおりです。

| 機器設定のみ | | | すべて（ユーザー情報を含む） |
|---|---|---|---|
| ネットワーク設定側 | ユーザー情報 | • 宛先表（共有）<br>• ショートカット（共有）<br>• メール定型文 | • 宛先表（共有）<br>• ショートカット（共有）<br>• メール定型文<br>• ユーザー登録<br>• 宛先表（個人） |
| | 機器設定 | • 本体機器設定<br>• 本体初期値設定<br>• TCP/IP 設定＊1<br>• メール設定＊2<br>• インターネット時刻設定＊3 | • 本体機器設定<br>• 本体初期値設定<br>• TCP/IP 設定＊1<br>• メール設定＊2<br>• インターネット時刻設定＊3 |
| | 機器管理設定 | • アクセス制限<br>• ユーザー使用状況管理＊4<br>• セキュリティー設定 | • アクセス制限<br>• ユーザー使用状況管理＊4<br>• セキュリティー設定<br>• 自動配信 |
| | 機器情報 | 機器状態の機器名称、設置場所 | 機器状態の機器名称、設置場所 |
| 本体側 | | 機器に保存されている全データ | 機器に保存されている全データ |

＊1　ホスト名、IP アドレスは対象外。

＊2　機器情報の名前、機器メールアドレス、返信先メールアドレス、SMTP 認証ユーザー名、SMTP 認証パスワード、POP3 ユーザー名、認証方式は対象外。

＊3　同期時刻、前回同期時刻は対象外。

＊4　各機能でカウントされた時間やページ数などのデータは対象外。

(空白ページ)

# 第 5 章

# 困ったときは

# 故障かなと思ったときは

故障かなと思ったときにお読みください。万一ここで書かれた処置を行っても異常が直らない場合にはNTT通信機器お取扱相談センタへご連絡ください。

補足

Internet Explorer 11など、ブラウザーのバージョンによってはネットワーク設定画面が正しく表示できないことがあります。その場合は、「互換表示」の設定を有効にしてください。

## ネットワーク設定画面に接続できない

ネットワーク設定画面に接続できないときは、まず、以下のことを確認してください。

| 発生状況 | チェック項目 | 処　　置 |
|---|---|---|
| ネットワークに接続できない | 電源コードはしっかり差し込んでありますか？ | 電源プラグがしっかり差し込まれているか確認してください。 |
| | 電源スイッチはONになっていますか？ | 電源スイッチをONにしてください。詳細は、『取扱説明書』第1章の「電源について」の「電源スイッチ」を参照してください。 |
| | ネットワーク設定は間違っていませんか？ | ネットワーク設定を正しく行ってください。詳細は、『取扱説明書』第8章の「ネットワーク設定をする」を参照してください。 |
| | LANケーブルはしっかり差し込んでありますか？ | LANケーブルが本商品とネットワーク周辺機器（LANハブ、ルーターなど）側に、しっかり差し込まれているか確認してください。 |
| | LANケーブルやLANカードは破損していませんか？ | LANケーブルまたはLANカードを確認してください。破損している場合は、交換してください。 |
| | ネットワーク周辺機器（LANハブ、ルーターなど）の電源はONになっていますか？ | ネットワーク周辺機器（LANハブ、ルーターなど）の電源スイッチをONにしてください。 |
| | ネットワーク周辺機器（LANハブ、ルーターなど）は破損していませんか？ | 機器をほかのポートに接続し、正常に動作するか確認してください。<br>動作しない場合は、機器を交換してください。 |
| | ネットワーク周辺機器の設定は間違っていませんか？ | 機器の取扱説明書を参照し、ネットワーク設定を正しく行ってください。<br>機器を入れ換えたときは、ネットワーク設定を再度行ってください。 |
| ネットワーク設定画面に接続できない | IPアドレスの入力は間違っていませんか？ | ブラウザーにIPアドレスを入力する場合は、本体に設定したIPアドレスを確認し、正しく入力してください。 |
| | ネットワーク設定画面へのショートカットに登録されているIPアドレスは間違っていませんか？ | ネットワーク設定画面へのショートカットのアイコンを右クリックして、プロパティをクリックします。「Webドキュメントタブ」をクリックし、「URL」に表示されている接続先のIPアドレスを確認してください。<br>間違っているときは、IPアドレスを入力し直してください。 |

| 発生状況 | チェック項目 | 処　　置 |
|---|---|---|
| ネットワーク設定画面に接続できない | ブラウザーの設定は間違っていませんか？ | プロキシを利用している環境の場合は、例外のアドレスとして本商品の P アドレスを登録してください。<br>Internet Explorer をお使いのときは、メニューバーの「ツール」－「インターネット オプション」－［接続］タブから［LAN の設定］をクリックし、プロキシサーバーの設定を確認して、例外のアドレスとして本商品の IP アドレスを登録してください。<br>その他のブラウザーを使用している場合は、ヘルプなどを参照し、設定を確認してください。 |
| | ブラウザーのセキュリティー設定は間違っていませんか？ | セキュリティー設定を変更してください。(→ 5-4 ページ) |
| | ユーザー情報は登録されていますか？ | ユーザー情報を確認してください。登録されていないときは、ユーザーを登録してください。(→ 4-6 ページ) |
| | Cookie の設定は有効になっていますか？ | 使用しているブラウザーのヘルプなどを参照して、Cookie の設定を有効にしてください。 |
| | ログインのパスワードは間違っていませんか？ | ユーザー情報に登録したパスワードを正しく入力してください。 |

# ファクス機能やネットワーク設定画面のトラブル

| 発生状況 | チェック項目 | 処　　置 |
|---|---|---|
| ファクスの送受信ができない | コンピューターのシステムメモリーは不足していませんか？ | コンピューターのメモリー容量が本商品の動作環境を満たしているかどうか、確認してください。<br>満たしていな場合は、メモリーを増設してください。複数のアプリケーションや不要な常駐ソフトが起動している場合は、終了させてください。 |
| | 電話機ヒモはしっかり差し込んでありますか？ | 電話機ヒモが本商品と電話回線側にしっかり差し込まれているか確認してください。 |
| | 応用通信機能（閉域通信など）が設定されていませんか？ | 応用通信の中には、送信や受信を制限する設定があります。『取扱説明書』第２章の「セキュリティー通信機能」を参照してください。 |
| | 自動配信設定は間違っていませんか？ | 自動配信設定を正しく行ってください。(→ 4-46 ページ) |
| インターネットファクスが送信できない | メールサーバーのアカウント・パスワード設定は間違っていませんか？ | メールサーバーのアカウント・パスワードの設定を正しく行ってください。(→ 4-36 ページ) |
| ネットワーク設定画面のディスク残量が少なくなった | ネットワーク設定のディスク残量を確認してください。(→ 3-8 ページ) | ディスク残量が不足している場合は、不要なファイルを削除してください。 |

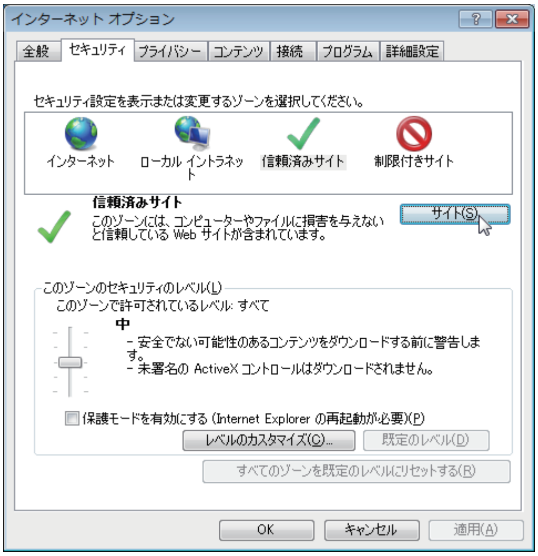
# ブラウザーの設定について

以下の方法により、ブラウザーのセキュリティー設定を変更してください。
（画面は Windows 7 の Internet Explorer 8 のものです）

**1** ブラウザーを起動し、メニューバーまたはツールバーの「ツール」-「インターネット　オプション」を選択します。

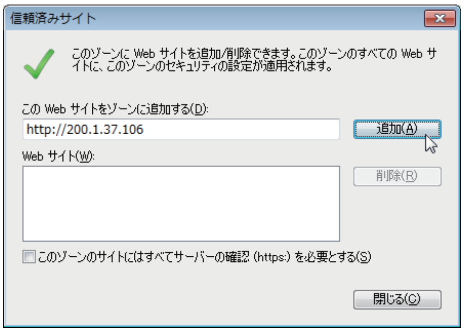
**2** ［セキュリティ］タブをクリックし、「信頼済みサイト」を選択します。

**3** ［サイト］ボタンをクリックします。




**4** 「この Web サイトをゾーンに追加する」に、お使いのサーバー IP のアドレスを「http://xxx.xxx.xxx.xxx」のように入力します。

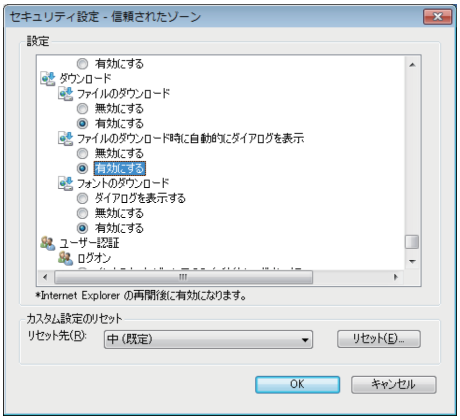
**5** 「このゾーンのサイトはすべてサーバーの確認（https:）を必要とする」のチェックを外し、［追加］ボタンをクリックします。




**6** ［閉じる］ボタンをクリックします。

**7** ［レベルのカスタマイズ］ボタンをクリックします。

**8** ダウンロードの「ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示」を有効にします。




**9** [OK] ボタンをクリックします。

**10** 「このゾーンの設定を変更しますか？」のダイアログが表示されるので[はい (Y)] ボタンをクリックします。

**11** [OK] ボタンをクリックします。

**12** ブラウザーを再起動します。

（空白ページ）

# 第 6 章

# 商標および著作権

# 商標および著作権などについて

## 登録商標および商標について

- Microsoft®、Windows ロゴ、Windows®、Windows Server®、Windows Vista®、Internet Explorer® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、Adobe® Flash® および PostScript は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Ethernet は、Xerox Corporation の登録商標です。
- Evernote は、Evernote Corporation の登録商標または商標です。
- その他の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

## オープンソースライセンスについて

### ❑ BSD license



Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

### ❑ The zlib/libpng license

TinyXML is released under the zlib license:
This software is provided ‘as-is’, without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Copyright © 1995-1998 Jean-loup Gailly and Mark Adler
This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.
Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.
   Jean-loup Gailly Mark Adlerjloup@gzip.org madler@alumni.caltech.edu

## ❑ Boost software license

Boost Software License - Version 1.0 - August 17th, 2003

Permission is hereby granted, free of charge, to any person or organization obtaining a copy of the software and accompanying documentation covered by this license (the "Software") to use, reproduce, display, distribute, execute, and transmit the Software, and to prepare derivative works of the Software, and to permit third-parties to whom the Software is furnished to do so, all subject to the following:

The copyright notices in the Software and this entire statement, including the above license grant, this restriction and the following disclaimer, must be included in all copies of the Software, in whole or in part, and all derivative works of the Software, unless such copies or derivative works are solely in the form of machine-executable object code generated by a source language processor.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, TITLE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR ANYONE DISTRIBUTING THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

## ❑ The independent JPEG group's JPEG software

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

## ❑ OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;
LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

## ❑ Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.
If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.
This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this softwaremust display the following acknowledgement:
   "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
   The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence
[including the GNU Public Licence.]

本商品はダイナミックエコマーク認定商品です。

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報などを提供しています。
本商品を最適にご利用いただくために、定期的にごらんいただくことをお勧めします。

**当社ホームページ：** http://web116.jp/ced/
http://flets-w.com/solution/kiki_info/

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

## NTT通信機器お取扱相談センタ

■NTT東日本エリア（北海道、東北、関東、甲信越地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：FREE 0120-970413

※PHS・携帯電話・050IP電話からのご利用は：03-5667-7100（通話料金がかかります）

受付時間：9:00～17:00
※年末年始：12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

■NTT西日本エリア（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）でご利用のお客様

お問い合わせ先：FREE 0120-248995

※PHS・携帯電話からも利用可能です。

受付時間：9:00～17:00
※年末年始：12月29日～1月3日は休業とさせていただきます。

## 故障に関するお問い合わせ

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。(24時間 年中無休)

※ 携帯電話・PHSからは「0120-444-113」にてお受けしています。
※ 故障修理等の対応時間は9:00～17:00となります。
(17:00～翌日9:00までは録音にて受付しており順次ご対応いたします。)

電話番号はお間違えにならないように、ご注意願います。



NTT